

## はじめに

障害者の生涯学習推進については、平成18年の国連総会における「障害者の権利に関する条約」の採択を受け、国では、「障害者基本法」や「障害を理由とする差別の解消の促進に関する法律」など、国内法の整備を進めるとともに、平成29年には、文部科学大臣から「特別支援教育の生涯学習化に向けて」と題するメッセージが出されるなど、共生社会の実現に向け、学校卒業後も含めた切れ目ない学習支援の整備の促進のため様々な取組が行われています。

一方、本県における令和3年3月の特別支援学校高等部卒業生の高等教育機関への進学率は約0.8%であり、卒業生の多くは就職又は障害福祉サービス事業所などに進むこととなりますが、県内で障害者を対象とした主催事業を実施している公民館はまだごく少数であるなど、障害者の学びの場をいかに確保していくかが今後の課題となっています。

このような状況を踏まえ、県教育委員会では、令和4年11月に県生涯学習審議会に「障害者の生涯学習の推進方策」について諮問するとともに、生涯学習に関する実態やニーズを把握するための調査を実施しました。

本調査では、障害者本人を対象として、学習内容別生涯学習経験と今後のニーズ、障害者の生涯学習をめぐる状況など、様々な角度から質問を設け、研究を行いました。調査結果については、今後、本県における障害者の生涯学習の推進に係る施策や事業構築等に生かしていくほか、県内各市町村における障害者の生涯学習に関する取組の参考となれば幸いです。

最後に、本調査に御回答いただいた皆様に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

令和5年3月

青森県教育庁

生涯学習課長 渡部 泰雄

## 目 次

第 1 章	調査の概要	1
1	調査の名称	
2	調査の趣旨	
3	調査対象	
4	調査方法	
5	回収結果	
6	研究顧問	
7	参考とした調査の概要	
第 2 章	調査結果	3
1	調査結果の見方	3
2	調査回答者の属性	3
3	日頃使っている情報源	6
4	学べる機会・情報の有無	7
5	障害者本人の学習内容別生涯学習経験と今後のニーズ	1 0
6	障害者の生涯学習をめぐる状況	1 4
第 3 章	考察	2 5
I	調査結果から見える「障害のある方の生涯学習」の現状	2 5
II	障害のある県民の生涯学習を推進するためのバリア除去と連携体制	3 6
第 4 章	資料	4 4
○	調査結果単純集計表	4 4
○	調査票	5 5

# 第1章 調査の概要

## 1 調査の名称

障害者の生涯学習に関する実態調査

## 2 調査の趣旨

障害者の生涯学習推進については、第4次障害者基本計画や第3期教育振興基本計画の中に明記されており、国では、共生社会の実現に向けて学校卒業後も障害者が学び続けることができる生涯学習の取組や環境整備等を推進することが必要であるとされている。

また、文部科学省では、有識者会議を設置し、障害者の生涯学習に関する現状と課題の把握、それに基づく推進方策について検討を行い、報告書が取りまとめられ、この報告を基に通知が出され、都道府県及び市町村に求められる取組が明記されている。

一方で、本県ではこれまで障害者の生涯学習に関する実態やニーズの把握について調査研究は行われていないことから、本県における障害者の生涯学習を推進していくに当たり、障害者の生涯学習に関する実態やニーズの把握のための調査を行い、施策の企画立案に資することを目的として実施するものである。

## 3 調査対象

県内特別支援学校高等部・高等支援学校 14校に通う生徒 661人

県内障害者支援施設・障害福祉サービス事業所等利用者 607人

県内企業に雇用されている障害者 322人

計 1,590人

## 4 調査方法

県内特別支援学校高等部・高等支援学校 14校のほか、地域などを考慮し抽出した障害者支援施設・障害福祉サービス事業所等、障害者雇用企業へ調査用紙を送付し、直接記入された調査票を同封の返信用封筒により、無記名で回収した。調査表に記入にあたっては、サポートを受けることや代理の回答を可とした。なお、調査票の印刷・発送・回収、調査結果の集計業務は、業者委託により実施した。

- ・調査業務委託先 特定非営利活動法人プラットフォームあおもり
- ・調査票の発送 令和5年1月27日
- ・回答期限 令和5年2月13日

※調査票については、下記からダウンロードすることができます。

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-shogai/research.html>

## 5 回収結果

有効回答数(率) : 800(50.31%)

調査不能数(率) : 790(49.69%)

不能内訳 回答不能連絡 1人(0.13%)、白紙回答 0人(0%)、無反応 789人(99.87%)

## 6 研究顧問

- ・越村 康英 氏 (弘前大学教育学部 准教授)
- ・大木 えりか 氏 (八戸学院大学健康医療学部 講師)

## 7 参考とした調査の概要

- ・調査の名称 文部科学省「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」
- ・実施時期 平成30年11月実施
- ・実施方法 無記名のインターネット調査
- ・回答数 4,650人

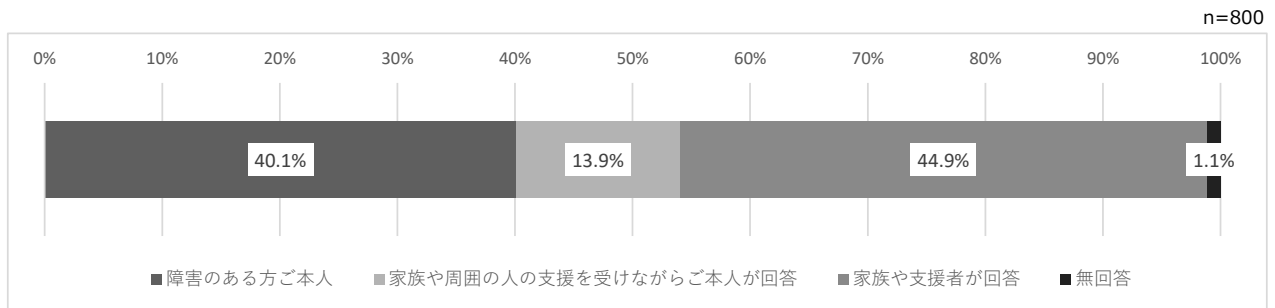
## 第2章 調査結果

### 1 調査結果の見方

- ・ グラフ中の「n=」は、質問に対する回答者数を表している。
- ・ 結果数値（パーセント）は、小数点第2位を四捨五入しており、合計が100%にならないこともある。

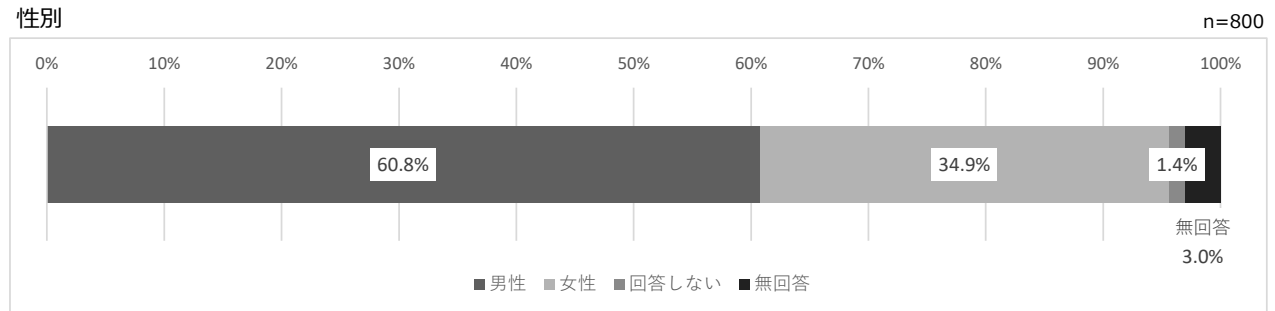
### 2 調査回答者の属性

問1 ご回答される方はどなたですか。当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

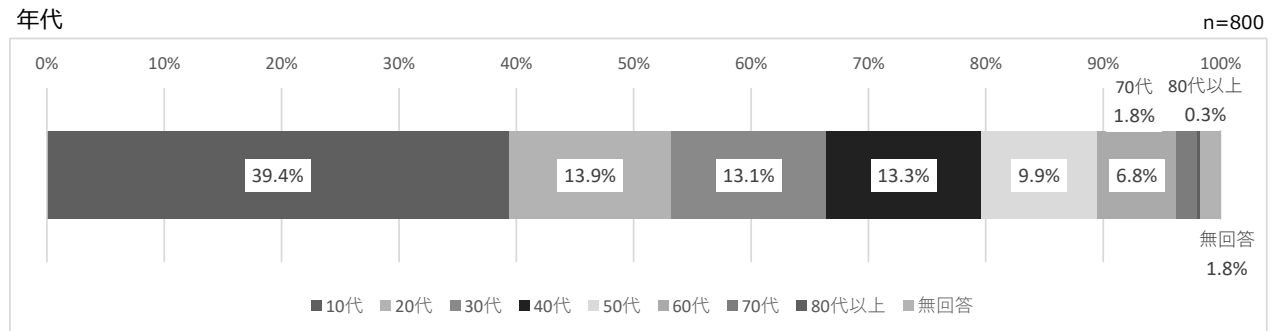


問2 障害のある方の性別、年代を教えてください。それぞれ当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

性別



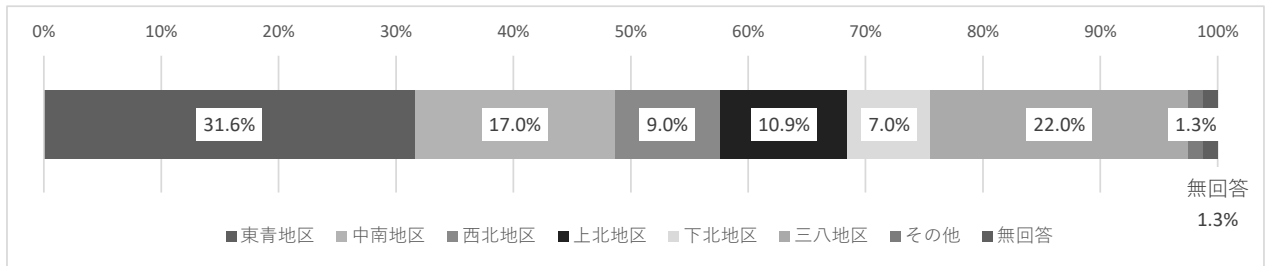
年代



問3 障害のある方のお住まいの市町村を教えてください。

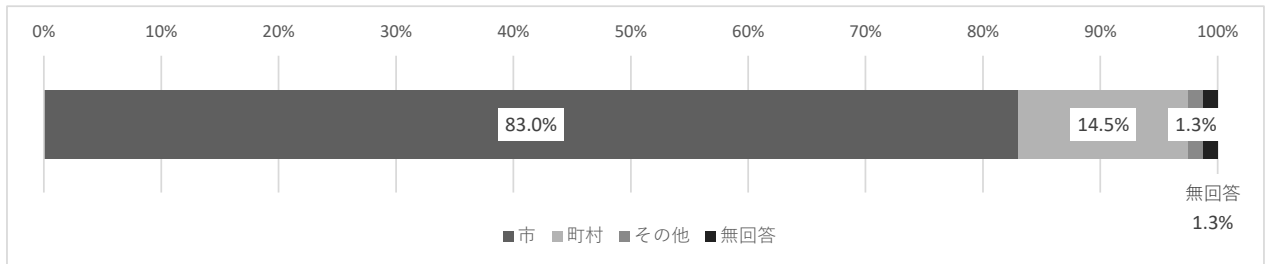
居住地区名

n=800



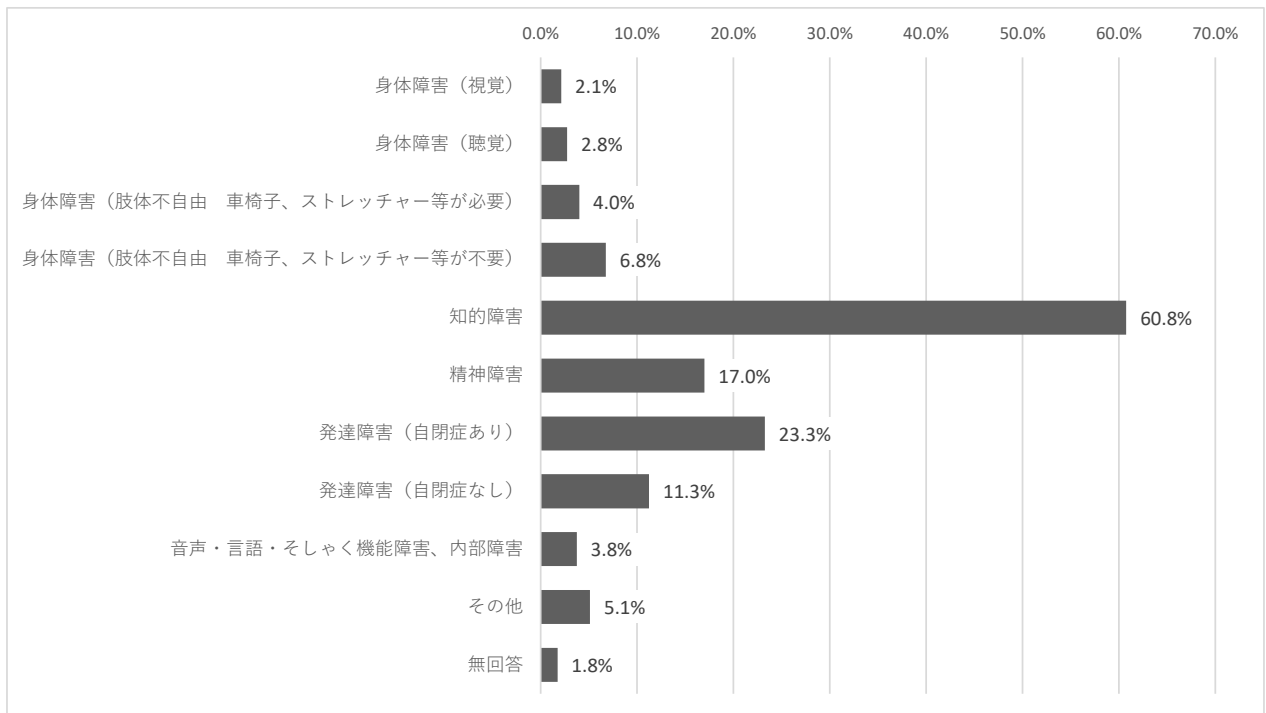
居住地区分

n=800



問4 障害のある方の障害の種類や状況を教えてください。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。

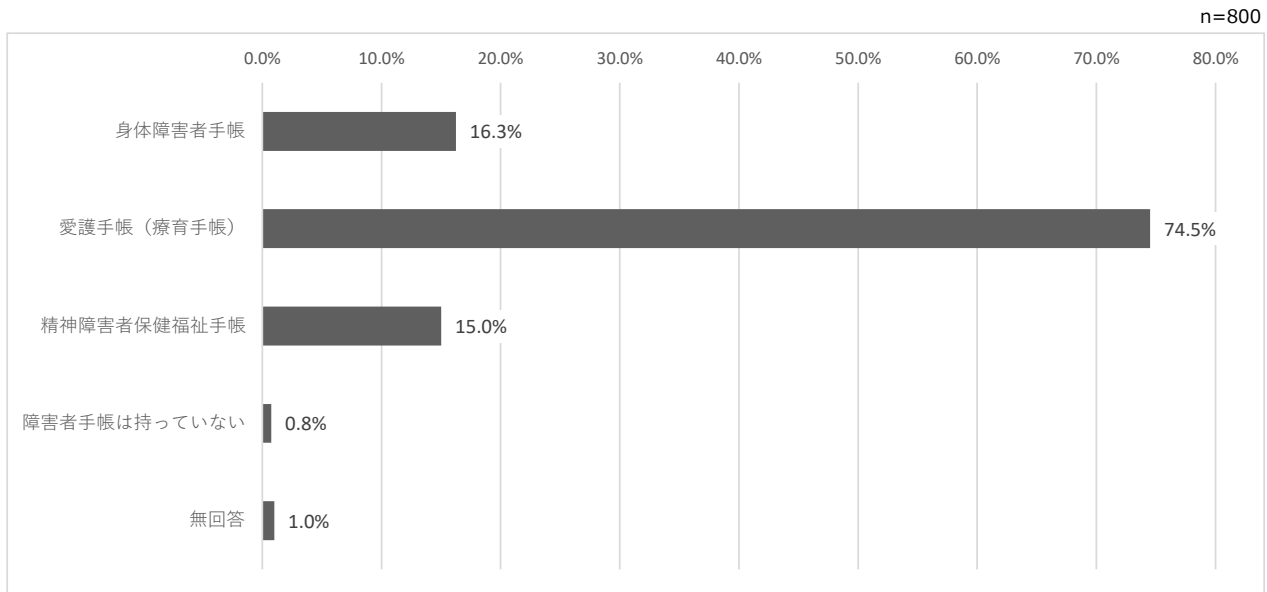
n=800



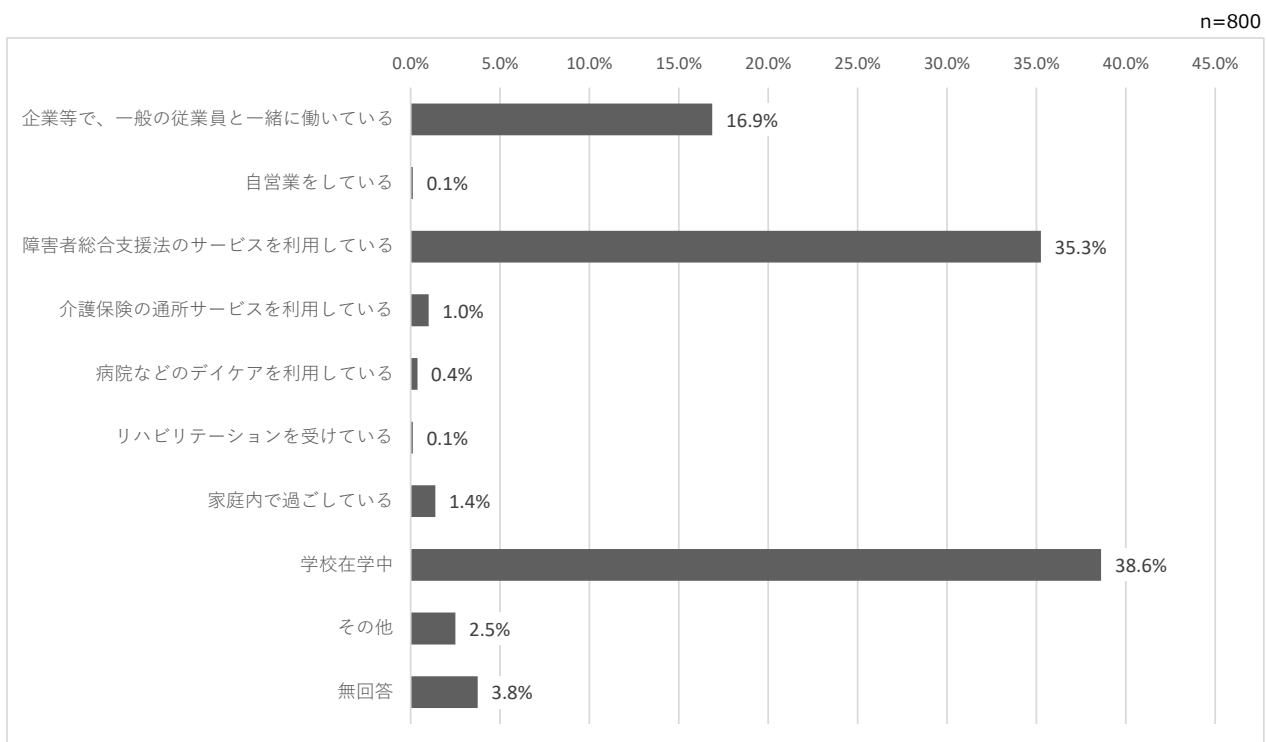
その他

- 腎臓 ●心臓・人工弁 ●右片まひ ●合併障害（4名） ●ダウン症(3名) ●ICDをうめこみしている ●多動性、注意欠如、学習障害 ●軽度の知的 ●アルコール障害 ●統合失調症 ●聴覚過敏 ●ADHD（2名）
- 側弯症 ●発話障害 ●てんかん ●心臓機能障害 ●チック ●ヒルシュスプルング症候群による排便障害
- 難病 ●腎不全 ●アスペルガー症候群 ●人工透析 ●軽度のダウン症 ●アルコール依存症 ●学習障害
- 自閉症

問5 障害のある方は障害者手帳をお持ちですか。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。



問6 障害のある方は日中、主にどのような活動をしていますか。当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。



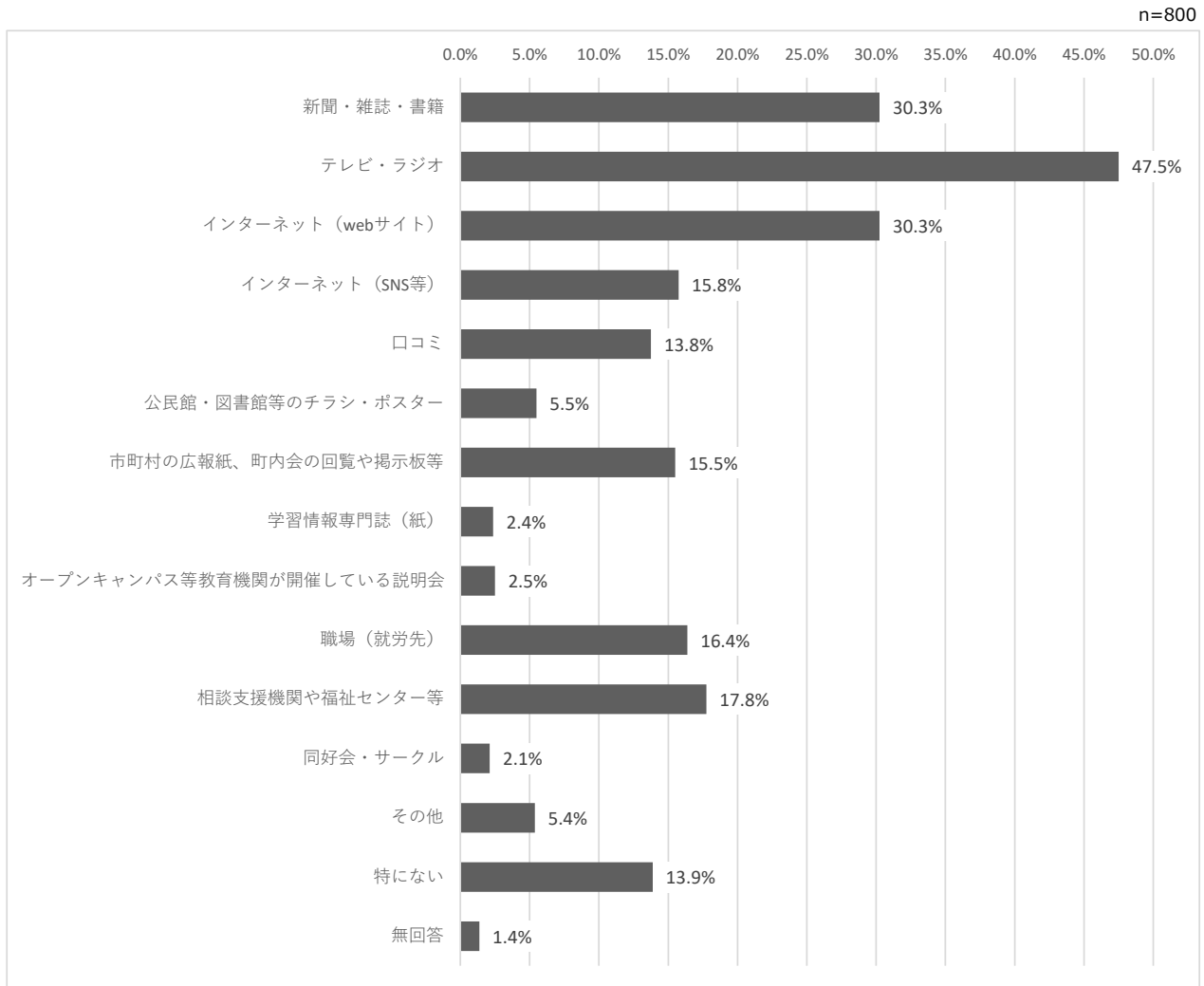
「学校在学中」という回答が38.6%と最も多く、次いで「障害者総合支援法のサービスを利用している」という回答が35.3%だった。

その他

- 就労継続支援A型 ● 通所施設 ● NPOひろば ● A型就労支援施設 ● A型事業所で勤務 ● 障がい者支援施設
- 通所 ● 障害福祉サービス（自立支援給付） ● 介護福祉老人ホーム介助員（掃除） ● 養護学校に通ってる
- 施設入所中 ● 施設内で紙ちぎりなど

### 3 日頃使っている情報源

問7 障害のある方は、ふだん生涯学習に関する情報をどのようなものから得ていますか。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。



生涯学習に関する情報は「テレビ・ラジオ」から得ていると回答した方が47.5%で最も多かった。

#### その他

- 学校（19名） ●学校からのお知らせ（2名） ●学校から（2名） ●安定所、ハローワーク（2名）
- 高等支援学校 ●職親会 ●学校の受業 ●学校の配布物 ●学校教育（2名） ●在学中の学校（2名）
- 子供が通っている学校 ●学校からのチラシ ●仲の良い保育士の先生 ●パンフレット ●法人内公報等
- 学校の担任 ●親の会

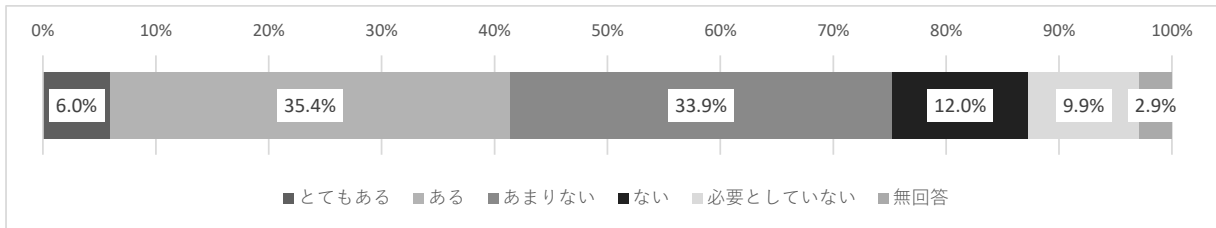


#### 4 学べる機会・情報の有無

問8 障害のある方が学びたいと思ったときに、学べる機会が身近にありますか。それぞれ当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

① 知りたいことを学びたいと思うとき、必要な情報はありますか。

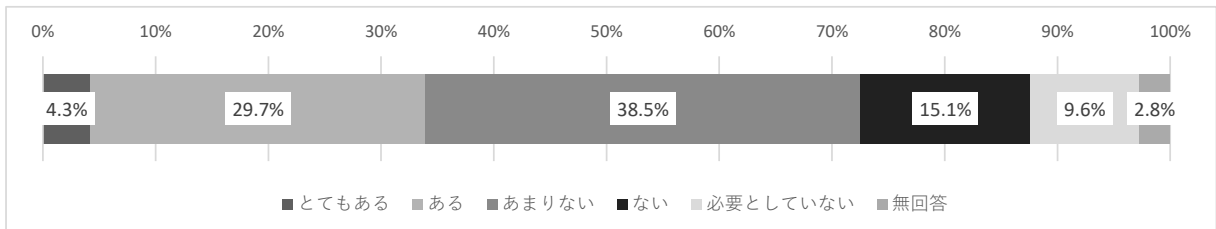
n=800



「とてもある」「ある」を合わせた「ある」という回答が41.4%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が45.9%となった。

② 知りたいことを学ぶための場や機会は身近にありますか。

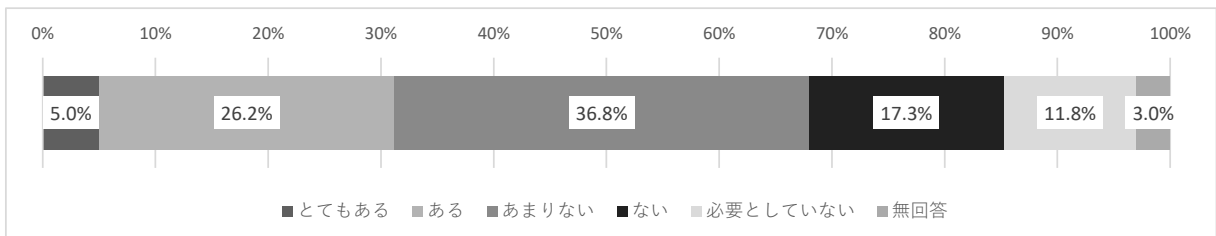
n=800



「とてもある」「ある」を合わせた「ある」という回答が34.0%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が53.6%となった。

③ 身に付けたい技術があるときに、必要な情報はありますか。

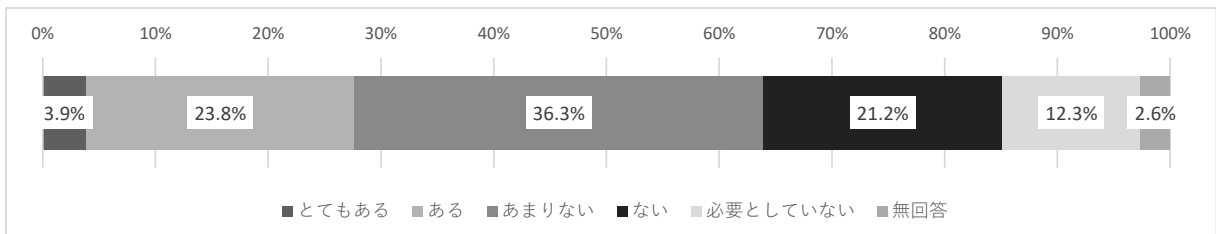
n=800



「とてもある」「ある」を合わせた「ある」という回答が31.2%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が54.1%となった。

④ 身に付けたい技術を学べる場や機会は身近にありますか。

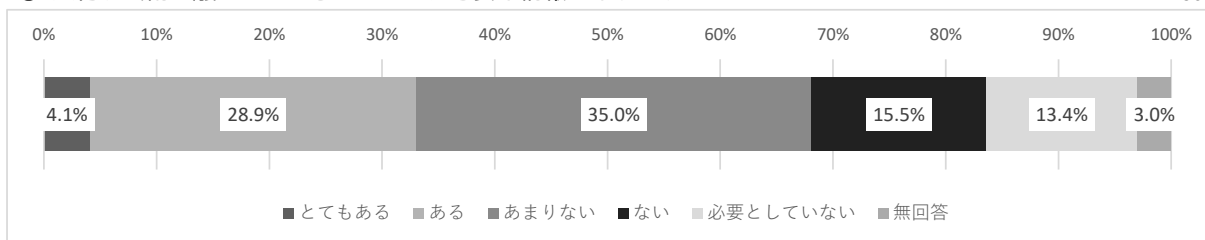
n=800



「とてもある」「ある」を合わせた「ある」という回答が27.7%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が57.5%となった。

⑤ 文化や芸術に触れたいと思うときに、必要な情報はありますか。

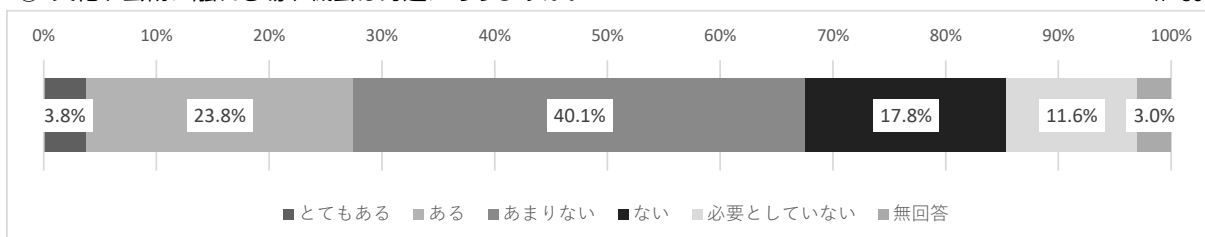
n=800



「とももある」「ある」を合わせた「ある」という回答が33.0%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が50.5%となった。

⑥ 文化や芸術に触れる場や機会は身近にありますか。

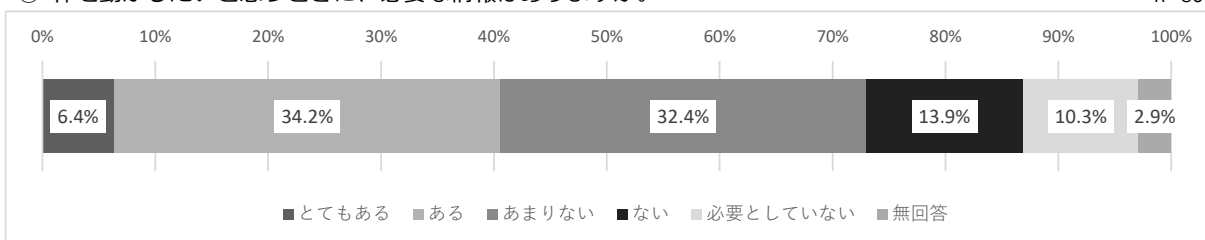
n=800



「とももある」「ある」を合わせた「ある」という回答が27.6%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が57.9%となった。

⑦ 体を動かしたいと思うときに、必要な情報はありますか。

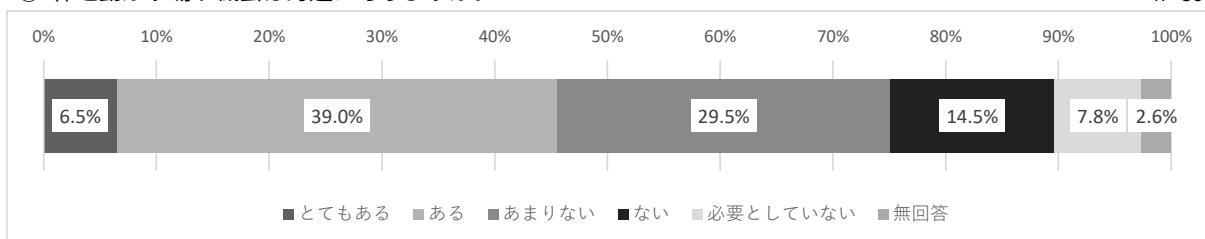
n=800



「とももある」「ある」を合わせた「ある」という回答が40.6%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が46.3%となった。

⑧ 体を動かす場や機会は身近にありますか。

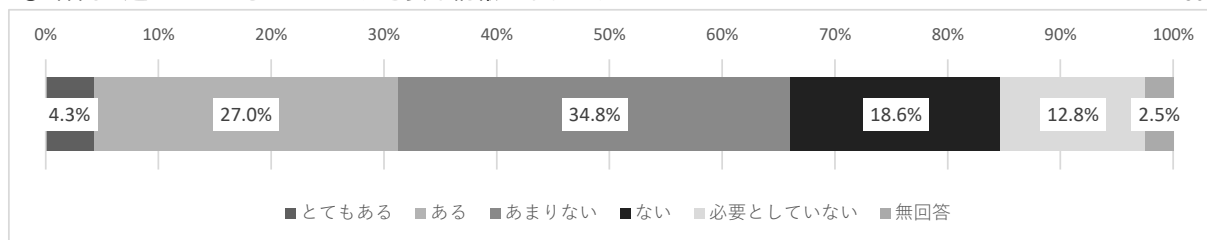
n=800



「とももある」「ある」を合わせた「ある」という回答が45.5%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が44.0%となった。

⑨ 仲間と遊びたいと思うときに、必要な情報はありますか。

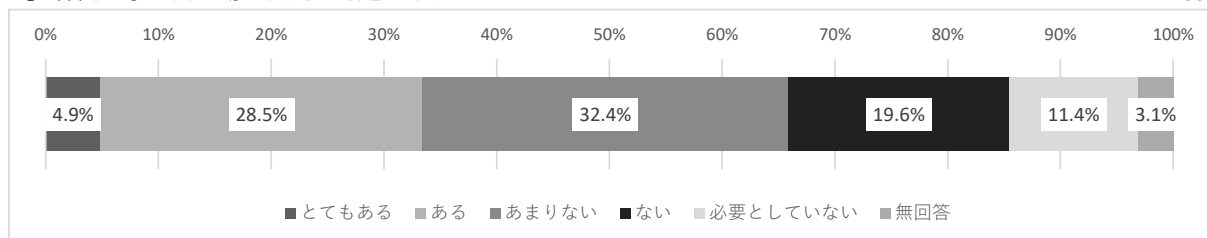
n=800



「とてもある」「ある」を合わせた「ある」という回答が31.3%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が53.4%となった。

⑩ 仲間と学び合う場や機会は身近にありますか。

n=800



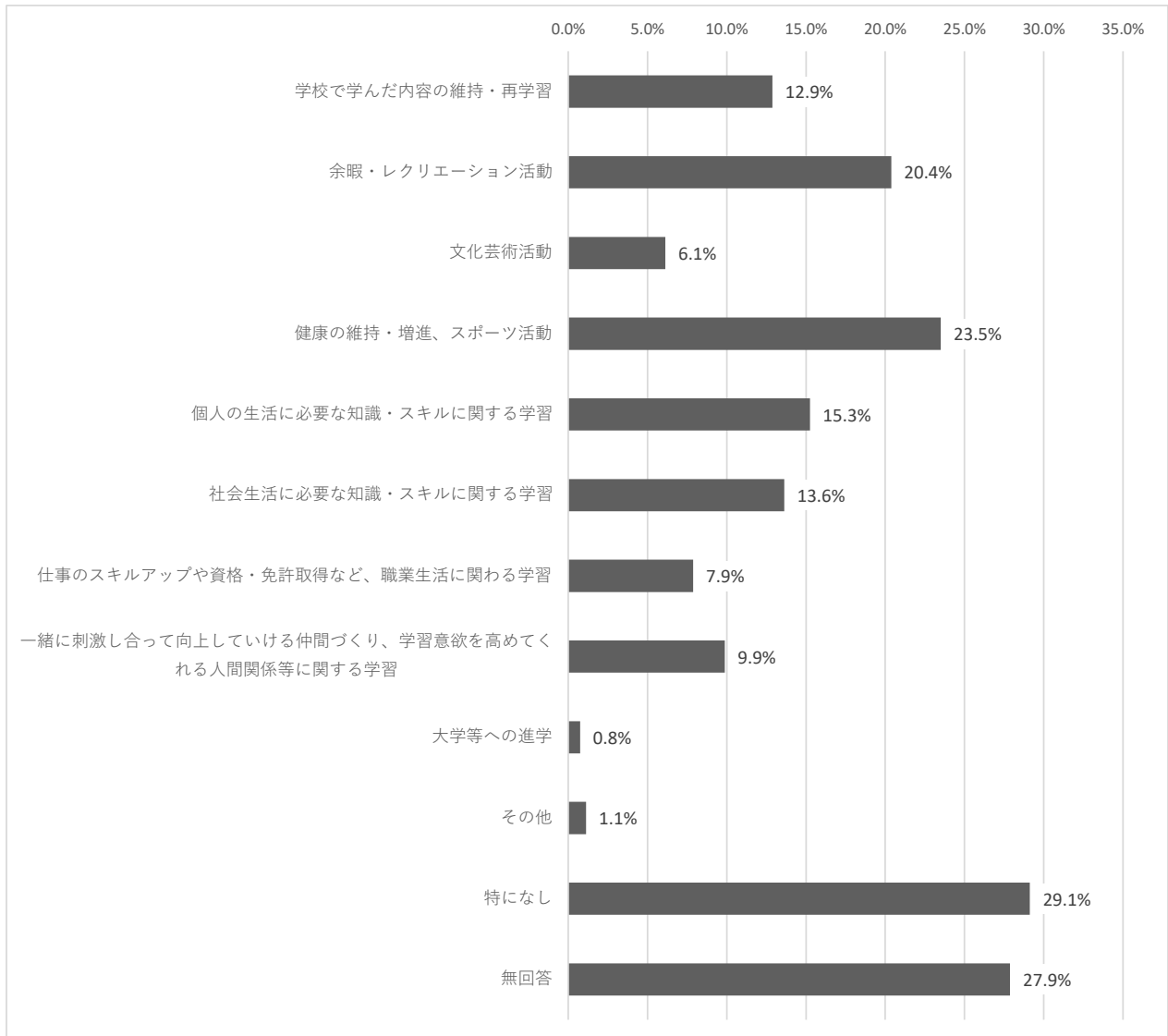
「とてもある」「ある」を合わせた「ある」という回答が33.4%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が52.0%となった。

## 5 障害者本人の学習内容別生涯学習経験と今後のニーズ

問9 障害のある方が学校卒業後、生涯学習（学校以外での学習や文化・スポーツ、趣味等）で続けていることはなんですか。（特別支援学校高等部・高等支援学校生徒は、学校以外で学習や文化・スポーツ、趣味等で続けていることは何ですか）また、これから取り組んでみたいことはなんですか。それぞれ当てはまるすべての記号に○をつけてください。

### 続けていること

n=800



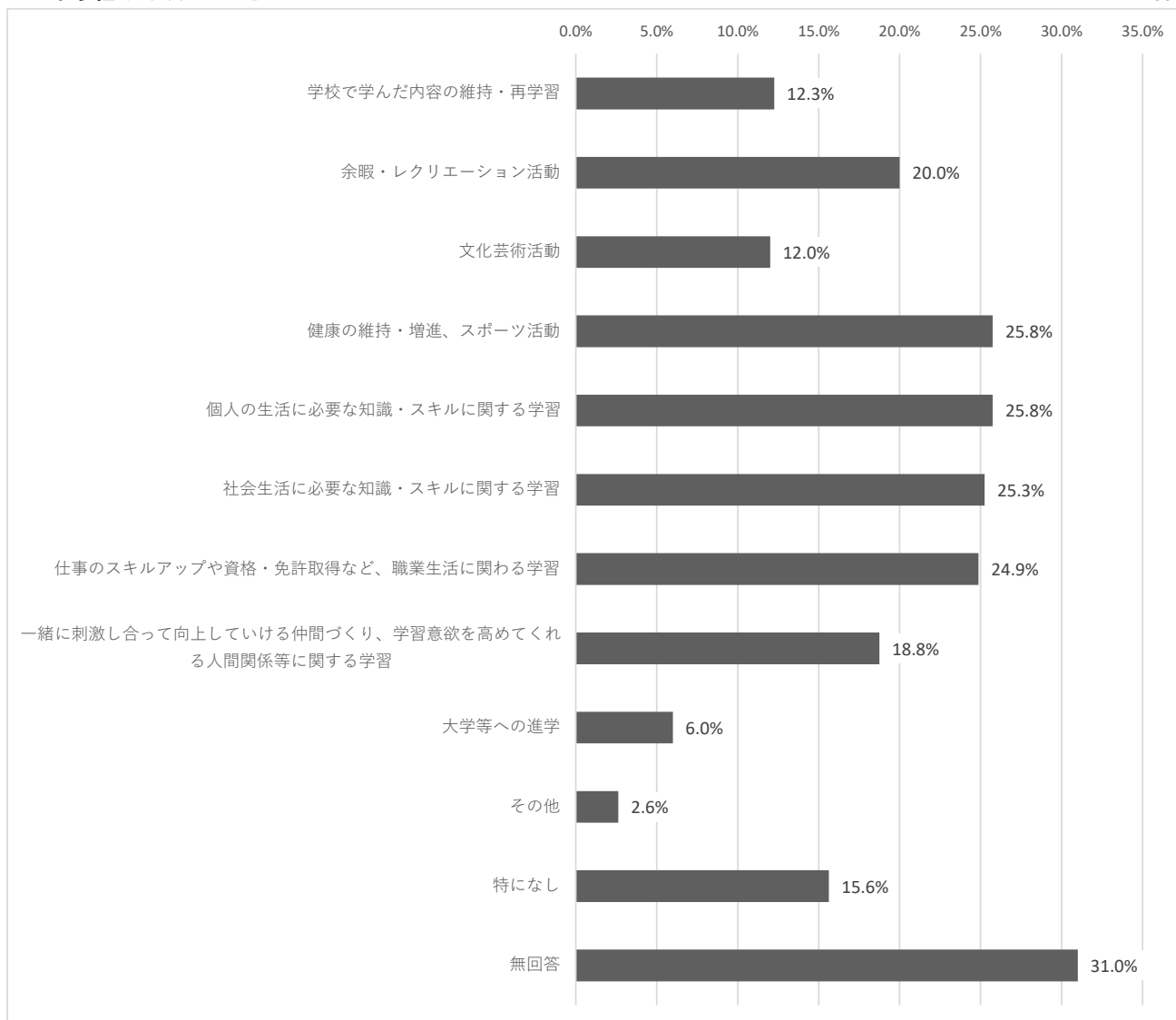
「健康の維持・増進、スポーツ活動」を続けていると回答した方が最も多く、23.5%だった。次いで「余暇・レクリエーション活動」と回答した方が20.4%だった。

### その他

●家庭学習（ドリル等） ●散歩 ●読書 ●習い事 ●イラストを書くこと ●土日の休みは、なるべく外出時に、ウォーキングも兼ねて、1時間程度歩くようにしています。夏は、ジョギングと散歩を夕方などに、30分～1時間、続けるようにしています。

## 取り組んでみたいこと

n=800



「健康の維持・増進、スポーツ活動」「個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習」に取り組んでみたいと回答した方が最も多く、25.8%だった。次いで「社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」と回答した方が25.3%だった。

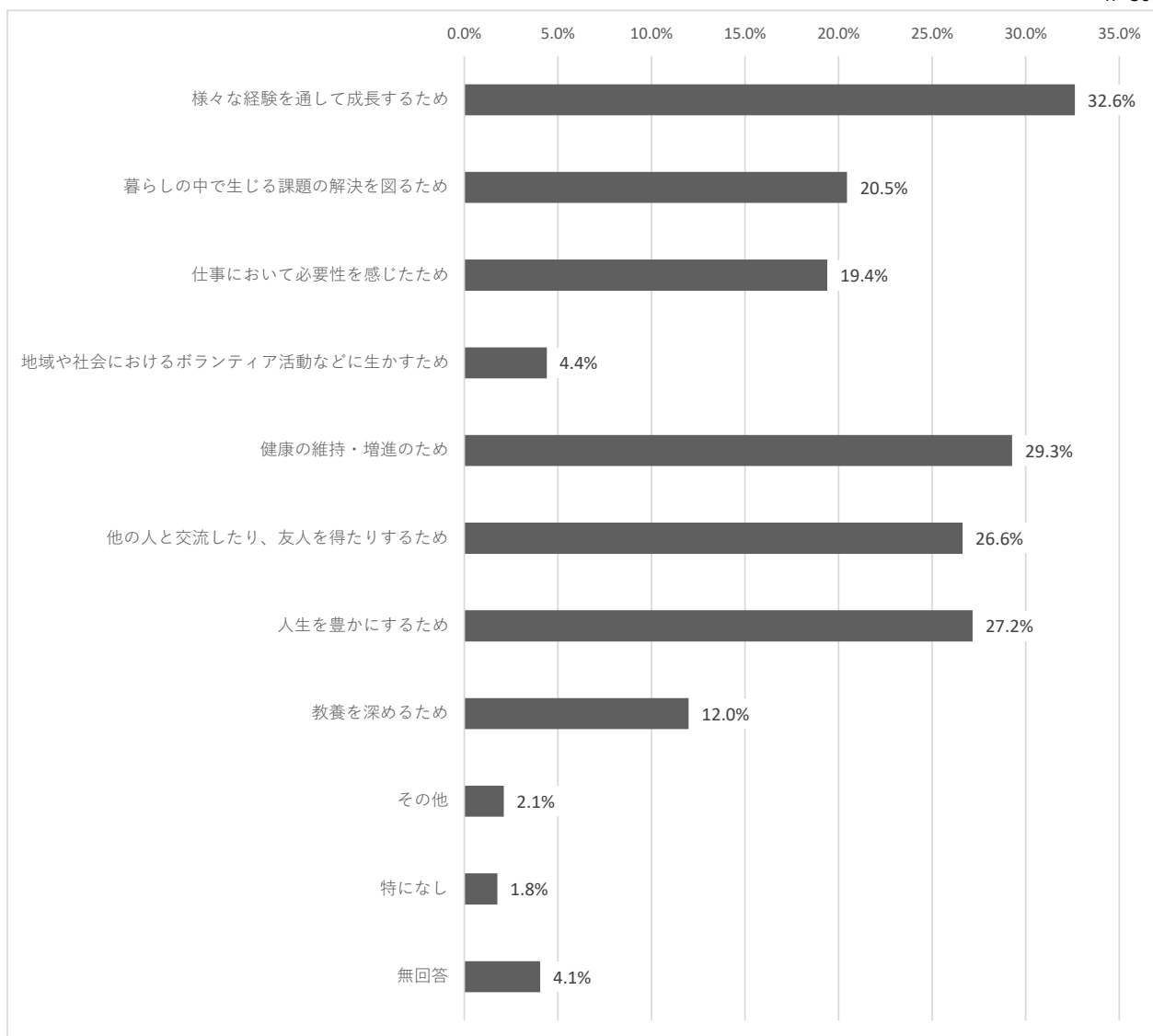
### その他

●ピアサポーターの制度化 ●eスポーツ ●自身の理解を進め、少しでも前進したいとは思っているが、なかなか難しい。 ●放送大学 ●親元をはなれてグループホームに過ごす ●障害者に特化した通学できる専門学校のようなどころへの進学 ●筋トレ ●人間観察、鑑賞

【問9で「サ 特になし」以外を回答した方はお答えください】

問10 障害のある方が生涯学習（学校以外での学習や文化・スポーツ、趣味等）を続けている理由はなんですか。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。

n=567



問9で「サ 特になし」以外を選択した方に回答してもらったところ、「様々な経験を通して成長するため」と回答した方が32.6%と最も多かった。

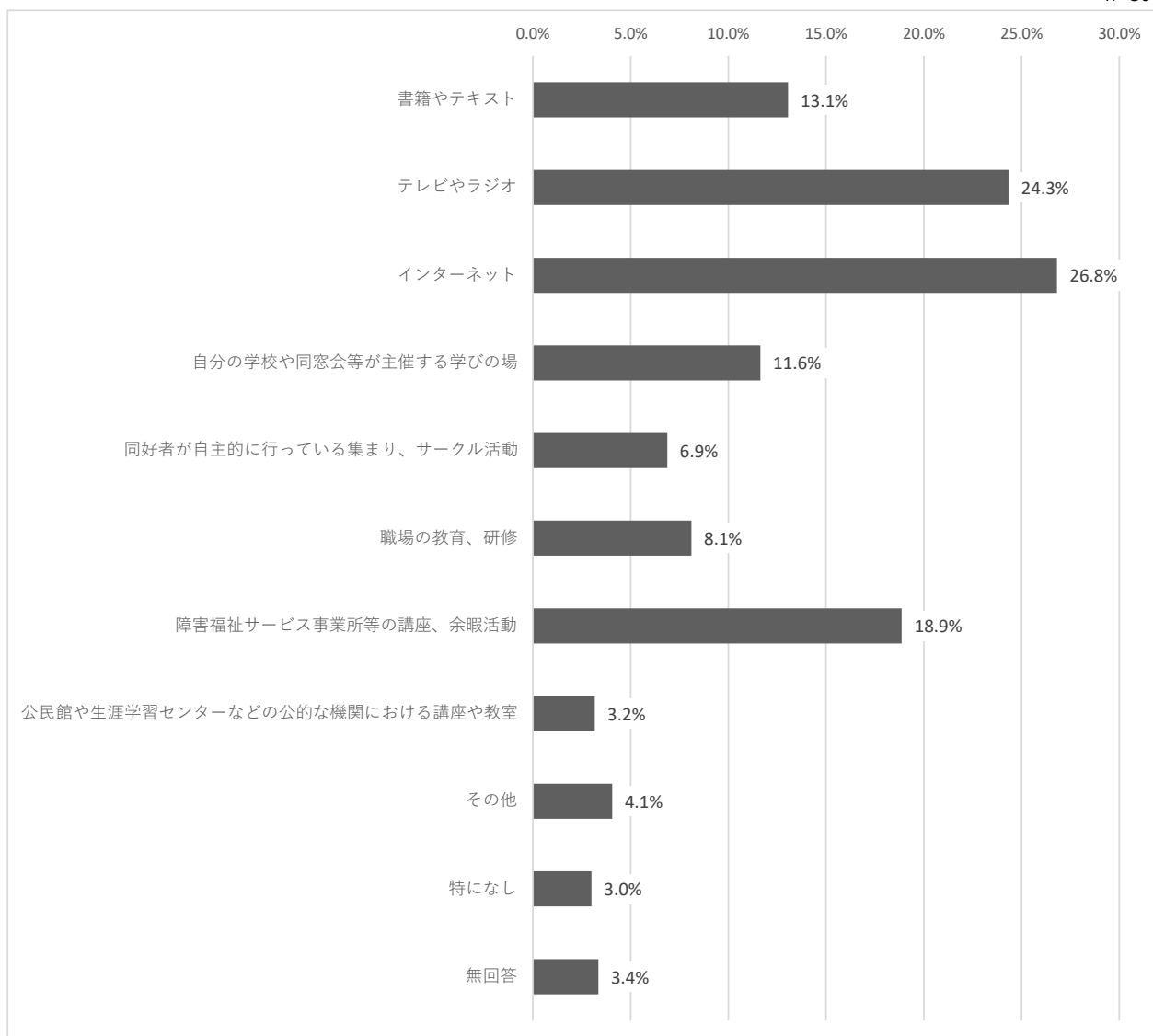
その他

- 大会に出場する為
- たのしいから
- 定年後の収入を得るため
- 面白いから
- 自身の生きづらさ、苦しさをどう和らげるか、どううまく付き合うか考えるため
- 小説を書くために必要
- ストレス解消
- ストレス発散
- 元々家族が参加していたことがあります
- 好きだから（2名）

【問9で「サ 特になし」以外を回答した方はお答えください】

問11 障害のある方は、生涯学習（学校以外での学習や文化・スポーツ、趣味等）をどのようにして続けていますか。  
当てはまるものすべての記号に○をつけてください。

n=567



設問9で「サ 特になし」以外を選択した方に回答してもらったところ、「インターネット」と回答した方が26.8%と一番多かった。

その他

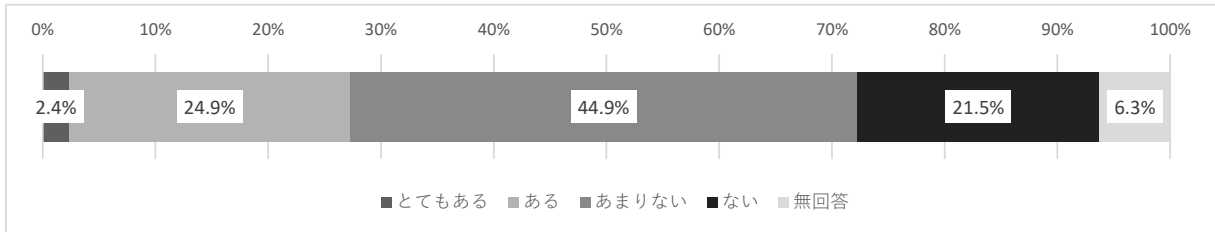
●親といっしょにスキー ●家族とスポーツやカラオケなどを楽しむ ●親の支え ●民間の教室 ●民間主催の教室 ●習い事（2名） ●自宅のパソコン ●音楽教室 ●デイサービス ●習い事として、一般の子と一緒にスイミング ●スポーツクラブ ●放課後等デイサービス ●自宅 ●母と一緒に ●ボランティアの方が行う教室、地域スポーツクラブが行う活動 ●カーブスで運動をしています ●母と一緒に、土日の休みは外出し、運動したり、外食をしたり、公共ルールもわかって欲しいので、なるべく、よく出かけるようにしています。（コロナが多い時期は、控えながら…。）

## 6 障害者の生涯学習をめぐる状況

問12 障害のある方の、生涯学習（学校以外での学習や文化・スポーツ、趣味等）をめぐる状況について、当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

### ① 生涯学習に関する情報がありますか。

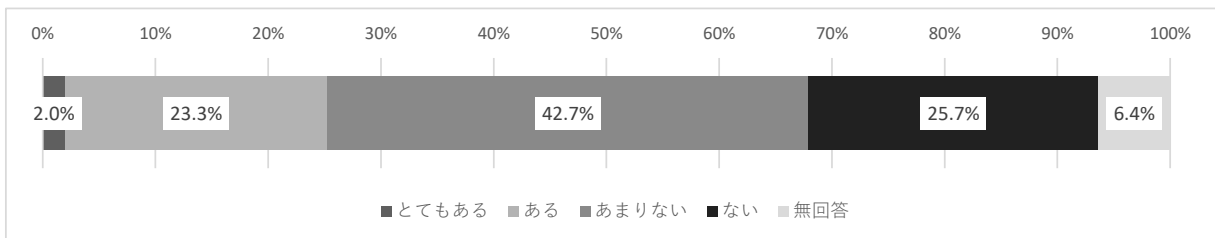
n=800



「とともある」「ある」を合わせた「ある」という回答は27.3%、「あまりない」「ない」をあわせた「ない」という回答は66.4%となった。

### ② 生涯学習の機会がありますか。

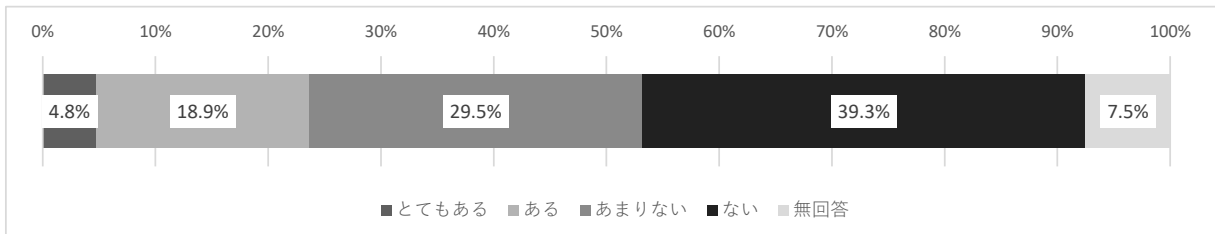
n=800



「とともある」「ある」を合わせた「ある」という回答が25.3%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が68.4%となった。

### ③ 生涯学習への参加を物理的に妨げる要因（階段の段差、多目的トイレの有無等）はありますか。

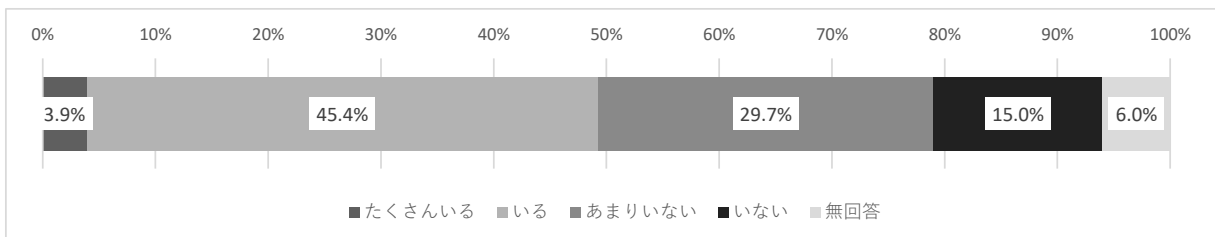
n=800



「とともある」「ある」を合わせた「ある」という回答が23.7%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が68.8%となった。

### ④ 学びたいと思ったときに相談する人がいますか。

n=800

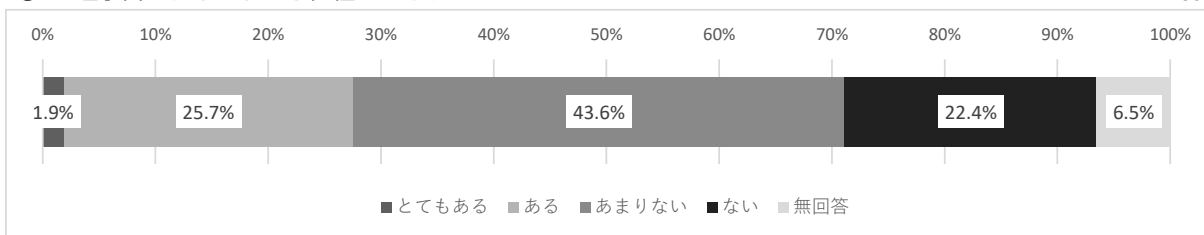


「たくさんいる」「いる」を合わせた「ある」という回答が49.3%、「あまりいない」「いない」を合わせた「いない」という回答が44.7%となった。



⑤ 生涯学習をサポートする仕組みがありますか。

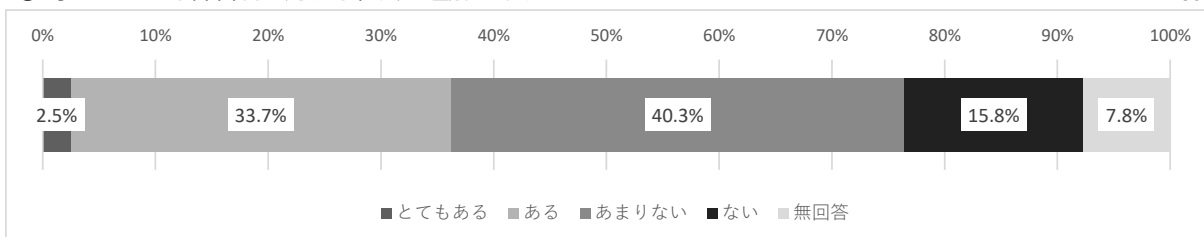
n=800



「とともある」「ある」を合わせた「ある」という回答が27.6%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が66.0%となった。

⑥ 学ぼうとする障害者に対する社会の理解がありますか。

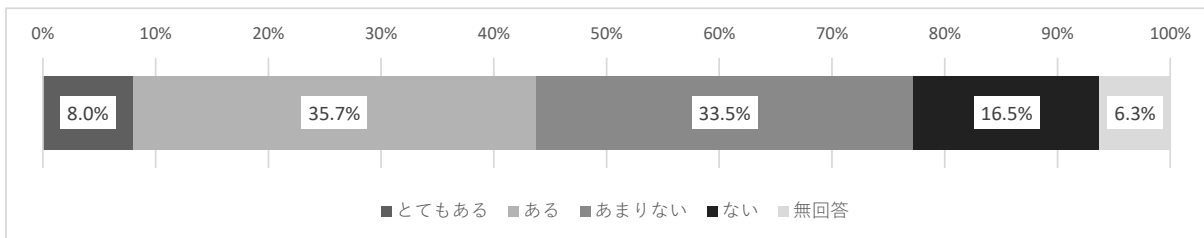
n=800



「とともある」「ある」を合わせた「ある」という回答が36.2%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が56.1%となった。

⑦ 学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがありますか。

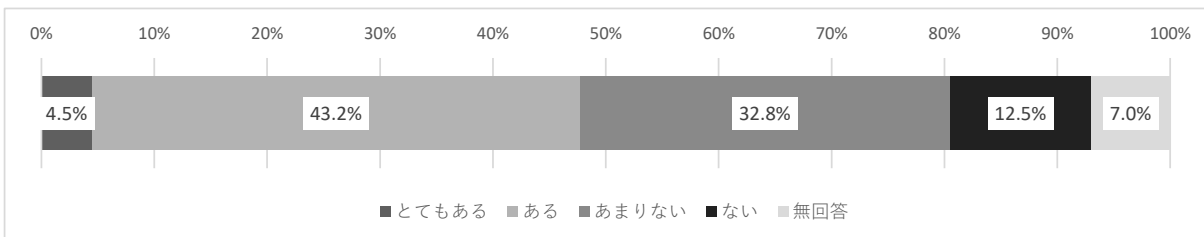
n=800



「とともある」「ある」を合わせた「ある」という回答が43.7%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が50.0%となった。

⑧ 生涯学習に充てる時間がありますか。

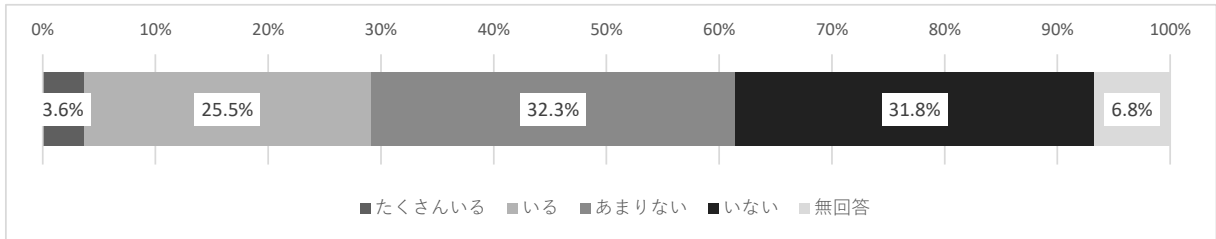
n=800



「とともある」「ある」を合わせた「ある」という回答が47.7%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が45.3%となった。

⑨ 一緒に学習する友人、仲間がいますか。

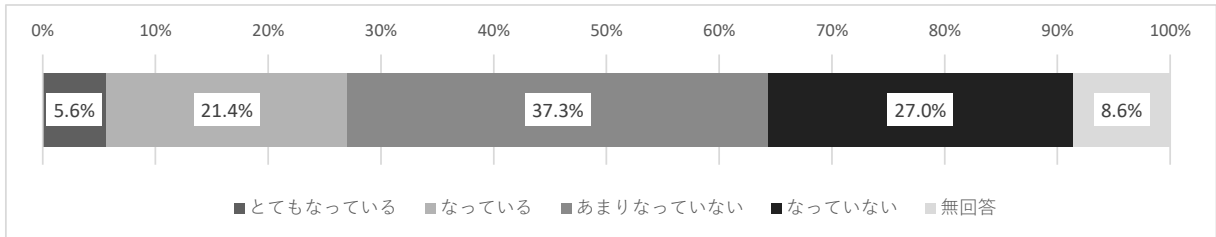
n=800



「たくさんいる」「いる」を合わせた「いる」という回答が29.1%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が64.1%となった。

⑩ 生涯学習にかかる費用が負担になっていますか。

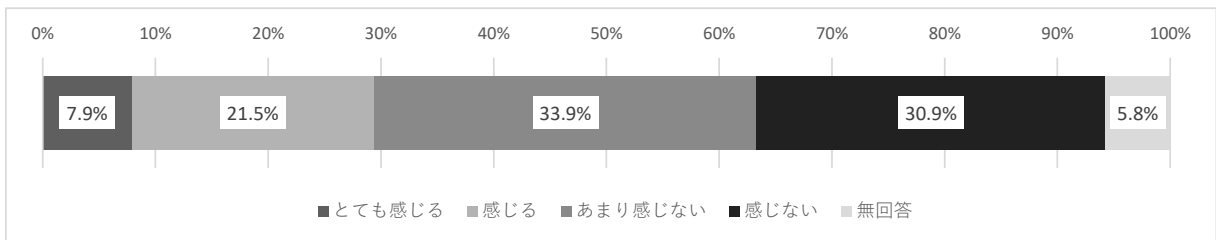
n=800



「とてもなっている」「なっている」を合わせた「なっている」という回答が27.0%、「あまりなっていない」「なっていない」を合わせた「いない」という回答が64.3%となった。

⑪ 外出すること自体に困難を感じますか。

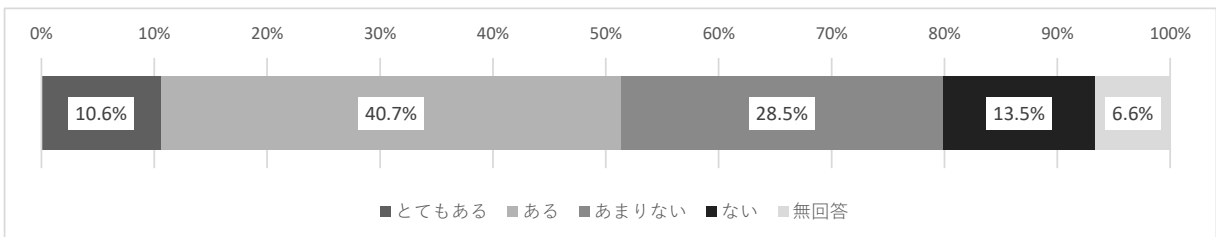
n=800



「とても感じる」「感じる」を合わせた「感じる」という回答が29.4%、「あまり感じない」「感じない」を合わせた「感じない」という回答が64.8%となった。

⑫ 学びたいという意欲がありますか。

n=800



「とてもある」「ある」を合わせた「ある」という回答が51.3%、「あまりない」「ない」を合わせた「ない」という回答が42.0%となった。

問13 障害のある方の生涯学習について、ご意見やご希望があればお書きください。

- 特になし、なし（29名）
- スポーツや文化的なサークルがあったらいいな。職場にあったらもっといいな。
- 仕事が家庭のじじょうで未だにパートなので障害者こようをもっとふやして下さい。
- 周りを見て自分は何をするかと言うのは出来ませんが、親がいなければ自立はできないと思う。他の兄弟に頼むとしても、家で生活出来ないと思う。一定の生活リズムの中で、時々社会と触れながら生活出来ていければ、今本人にとってベストな気がする。大まかな流れは理解出来るようだが、細かい事になると理解出来ないと思う。
- その前に障害の方の呼び方を「障害」ではなく「障がい」としないのでしょうか？そこが今回ギモンに思いながらアンケートしました。
- 障害の状態が学習できる状態にない。
- 市広報にページを多く載せてほしい。
- 平日はあまり時間が取れないので、平日以外でも生涯学習について相談できる環境等があれば良いと思います。
- 地域の差があることがとても気になります。私の住む地域は、障がいのある人たちがあつまってレクリエーションをたのしんだり、学んだりする場もほとんどありません。スポーツをやらせたくても障がいがあるので二の足を踏んでしまうことも事実。健常な人の中に混じり一緒にやらせてあげたいのですが、それをサポートしてくれる人もいないし。障がいのある方々で興味のある人が集い、たのしめるスポーツクラブみたいなものがあればいつも思っています。
- 学習意欲はあるが、イベントとかお知らせ等を耳にする機会が無いのが現状です。たぶん、意欲的な方はいると思う。声にする方は少ないと思いますが、声を聞いて欲しいと思う。
- もっと学びの場や、交流の場、情報などが豊富であってほしい。
- 気軽に参加できるイベントがたくさんあるといいなと思います。インターネットを利用できないので、情報などは仕事場を通して得られると嬉しいです。このアンケートは少し難しく、家族に説明してもらいながら書きました。これからも、僕たち障害者のために、よろしくお願いします。
- 展覧会など美術館でやる催事を、細かく地域ごとに、やってほしい。→家族で見に行くのに、遠すぎたりする。
- 一般の企業に勤めたいのに面接だけで落とされるこの社会がにくたらしい。障害あるからって、変な目でみないでほしい。採用してからこの人は使えるか、使えないか、考えた上で面接してほしい。障害者は忍耐力ある、使ってみてダメなら、かいこにしてほしいです。これじゃいつまでも、A型事業所にいなければならず、給料も安すぎて生活がなりたない。自殺も何度考えた事かはかり知れません！！
- 自分の会社⇔センター（病院）の3つで、今の自分が成り立っています。生活する上で、相談できる場所がある事が、必要だと、感じています。
- 体を動かして運動をしたいです。たくさんみんなとたくさん仲間を作ってコミュニケーションを図っていきたいです。
- 交通手段について、いつも考えさせられます。

- 現在知的障害特別支援学校に通っています。1年生です。中学生の頃からコンピューター関係の専門学校に進学したいと希望していましたが、特別支援学校は高校ではないので進学する為には高卒認定試験が必要だと中学校の先生に言われました。高卒認定試験というだけで本人は自分には無理だとあきらめてしまいました。息子の夢を叶えてあげたいです。障害者は卒業イコール就職しかないのでしょうか…
- 長文読解が難しいので、資格試験などの時に非常に困っている。また内容も複雑になるとどう勉強していいかわからない。
- 自宅の近くに学べる場があればOKなんですがバス電車を利用しなければ学習の場がないので不便さを感じています。SNS等や本で自分なりに勉強してるのですが物足りなさを感じてるのが実感です。障害者に対する心のバリアを外す方法、機会を県で増やしてくれると幸いです。
- 私は、精神障がい者である。今年度、精神保健福祉士の国家試験を受験した。合格できるかは、わからない。でも、僕以外でも、障がい者で精神保健福祉士を目指す人が出てきてほしい。
- もう少し周りの理解がほしい
- 生涯学習がわからないです。
- 見た目で障害が有ると分かる方にはみなさんやさしいですが、普通に見える人ほど障害される事、理解してもらえない、その中で自分がよりよい生活を理解し自分を好きになるため、生涯学習は一般の人も、自分も必要だと思う
- 町には障害者が学べるような施設や取り組みはありません。また、本人は移動が徒歩又は自転車のみのため、天候に左右されますし、バスも1時間又は2時間に1本しか出ていないため、とても不便なのではないかと思えます。経済的にも、父が昨年亡くなったため、障害者の母と障害者本人の2人暮らしで障害者年金と働いたお金でやりくりをしているため学習等に当てる金銭的余裕はないように見受けられます。
- 地域で定期的に講座等を開催してもらえたら、と思います。家で一人で黙々と学習をするより、他者とのコミュニケーションや、教えていただく喜びを味わえたらと思います。
- 特になし。
- 学習したいけど、その場所がない。
- 高校を卒業後は、勉強するばがない。
- 塾で学習するしかない。
- 私は、SNSもしくはスマホにより、生涯学習の情報を得ています。生涯学習の学びの場講座や教室の数を増やしてそれをわかりやすく検索しやすい様をお願い致します。
- 学習の前にスタッフの上に立つ人はもっとスタッフの真の姿（言動）を見るべきと思う。
- 害という字が使われるのはとても嫌だ。このご時世、地方自治体やいろんな所では「がい」と平仮名表記している。平仮名表記にすべきだ！
- 障害のある人々が生涯学習をするための施設があるとしても、そこへ通うための交通手段が無く、あつたとしても遠い所が多い。障害がある人たちでくらず、健常の人と一緒にできる所があると良いと思う。知らない事で、学べない事で、偏見も生まれるのではないのでしょうか？
- 普通に生活しているのでこのアンケートには答えられません
- 生きて行く希望が、持てない。
- 青森市での開催行事は割と多いと思いますが、自分の住む地域でも開催してもらえともっと参加率が向上するのは？

- 学習の目的でなくても、趣味の範囲で、日常を楽しく過ごす、意欲を持てる事を見つける事が大事だと思いました。
- 1、「障害のある方の生涯学習」と「障害のない方の障害学習」に違いはありますか？  
2、障害の程度によって、求めるレベル、実現可能性のレベルは違います。役にたつ内容は人によって違いがあるということです。段階を踏んでということであれば、今回のように形式的な内容で良いと思いますが…このアンケートをどのように活用するのか、“したいのか”質問から伝わるようであれば良かったと思います。  
3、但し、今回このようなアンケートの試みは大変良いと思います。障害者が学びを通して社会参加することに、理解が進む方向に役立てていただければと思います。
- 学びたい事があり、情報が入ってきてても、それに対する学び場が少なく受け入れて頂けない。またダウン症というだけで断られることもありました。
- 周囲の理解が必要。困っている時話せない事もあるので助けてもらえるように周囲の人が話しかける世の中になって欲しい。
- 本人が自分がしたいことを見つけられずにいる
- 県内にどんな同好会があるのか、紹介するホームページがあるとより生涯学習へのアクセスが容易になると思います。
- 障害と言ってもレベルがピンキリなので、ひとくくりにアンケートを取る意味がいまいちわからない。障害者を対象としている場に、行きたいとは思わない。
- 運動ができる施設を利用する機会が欲しい。
- コロナになってからバスケットができなくなったことが残念です。
- 今はまだ通学生なので困る事なく色んな支援や情報等がありますので、今は困ってはいません。卒業後の生活については、不安は大きいです。使いたいサービスもない、新しく作ってほしいサービスがあったとしても一人しかいないので、伝えてみてもどうなるのかなと思っています。
- 生涯学習についての情報や資料がないのでどのような学習をするのかわからない。また学習をする場所などでやっているのかわからない。
- 障害の程度によっては、家族の支援がなければむずかしいと思う。ましてや、家族が働いていたら時間的にも難しい。でも学校を卒業したあとで学校で学んだことがムダにならないようにしたいと思う。
- 家族のサポートも大変。会社の理解（親への）も必要。親も正社員で働くことがむずかしい。
- 50才もすぎるといろいろなことはあまりありません
- （保護者の意見として）理想を言えば、障害がある、ないに関わらず、皆が同じように何かを学び、共に生きるような世の中になって欲しいと思います。全国的に見てどうかは分かりませんが、青森市に長く住んでいて、障害者の生涯学習についての情報はほとんど無いように思います。情報を調べるだけで保護者は疲れてしまいます。何か障害別に、こういう場合はここへ連絡すれば教えてくれるとか一覧のような物があれば、何かを学びたい、スポーツをしたい…となった時にすぐ進めるかもしれません。（現時点で、もしそういう制度がありましたら申し訳ありません。私の勉強不足です。）
- 最重度の障害児で慣れていない場所だとパニックになり暴れるので、利用している施設に出張してきてもらう方法があればいいなと思います。車椅子の心配、トイレの心配もあり外出が難しいこともあるので。
- 生涯学習、イベントなどのお知らせを、個別で、年に数回でも郵送して欲しい。ほぼ、市の広報でしか見ないが、目立たず、見逃しがち。
- 学校、町内会の掲示板にポスターを貼る。

- 本人1人では参加できないので（言葉を発することができず、身振りで意味を表す）親（母親）がついていかないといけない。サポートしてくれるスタッフがいるとより参加しやすいかも。
- 学ぶ意欲は有るのですが、いろいろなじじょうにより、今はまだ生涯学習をするよゆうが無いです。
- 学ぼうとする障害者に社会の理解がほぼないので、対策してほしい。“障害者”というだけでB型事業所でしか活躍できないだろうという偏見がとて多くみられる。
- コミュニケーションをとることが難しいと、1人だと行かせることが難しいし親がつきそうとなると、時間が限られてしまいます。それも含めて学んだり参加できるサポートがあれば助かります。
- 周りにあまりないので もうすこし障害者の活動できる場をもうけてもらいたい
- 生涯学習について勉強したいと思います
- 障害のある人の自助会（当事者会）としてのコミュニティや、集まって交流する機会を増やしてほしいです。（親の会ばかり目立っていて参加できない）またその他学習の対象分野を広げたり、学べる場所を増やしてほしいです。（オンライン講座などもあるとうれしい、申込が手紙やFAXの場合もまだまだ多いので、メールやSNSからでも申込ができる機会が増えると助かる）
- 障害の程度が重いと、活動できるものがほとんどないと感じます。特別支援学校の放課後の時間や土日など、出身母校で定期的な集いや生涯学習が受けられたらいいな、と思います。
- 重度知的障害+自閉症の子をもつ親です。この春、支援学校高等部を卒業し、B型事業所へ通います。今までは学校（+児童デイサービス）で様々な活動ができていましたが、卒業後は無くなるので、単調な毎日になります。月に1~2回、体を動かす集団活動の場があるといいなと思います。本人はプールが好きなのですが、プール教室はまず無理ですし、公営プールも声が大きいのと動きも怪しいので一般の方と一緒に気が引けます。なので障がい者のみ利用できる日があるプールがあるととても嬉しい。大人の障がい者施設で、作業中心でなく、生涯学習もとり入れてくれたら毎日が充実するのではないのでしょうか。
- 小さい時は療育機関がありますが、中・高になると、確かに成長の伸びはないかもしれませんが、ニガテな所を学ばせる、練習する所、大きな子用の療育機関があれば良いと思いました。（放課後デイ・サービスでは足りません。専門を学んだ方がいる所がもっとほしいです）
- 役所や病院各種さまざま所で今コロナウイルスが流行している中で自分は補聴器をつけているが相手がマスクをしている為筆談をお願いしています。めんどいかも知れないけど手話はできないけどひつ談しだいでどうにかなってきた。
- 大勢の人が集える場に行くことに困難を感じるため、自宅でテキスト等による学習や、オンラインで受けられるものを選択しやすいとやりやすいと感じる。
- ありません
- 私にとって生涯学習の最大の障害になっているのは、時間とお金です。自分のペースで学習できる長いスパンでの時間とそれを学ぶための受講料や交通費、旅費、宿泊費等、教えたら金銭に関する事で学べない事は障害者ではなくとも多いです。時間的にも、体調の良悪で途中で断念せざるを得ない場合も多く、その時点で学ぶ意欲も根こそぎ引き抜かれてしまう事の方が多いです。体調不良の状態でも学び続けられる意味を失うのです。
- 健常者の方と比べて収入が劣る方が多いので、なるべく金銭的な負担がかからない環境で学べる機会があると嬉しい。又、何かを学びたいという気持ちがあればどのような環境でも何とかなるものだとは思う。
- 少しでも、目に見えない辛さを理解されるような社会になってほしい。私自身はもう遅いところがあるが、これから社会に出る同じ苦しみを持った方々を少しでも救ってほしい。

- 学校職場以外の余暇の過ごし方はとても大切だと思う。学びたい活動したいという意欲があるのに簡単に参加できない気持ちが大きかれ少なかれあると思う。一般の教室などにも快く参加できる場所もあると思うがなかなか知る事ができないのが残念です。障害のある方が集まってする学習なども必要ですがアンケートの回答にわからないというのも必要だと思う。
- 障害のある人でもきがるに相談できる所（場所・建物）分かりにくいので、わかりやすくしてほしい。社会の理解も必要だけど、一般の人と同じように接してほしい。
- 所得が少ないので書籍は図書館に頼ることが多く、ありがたく使わせていただいています。收藏されていない書籍も館外から取りよせてもらうこともできて便利だと思っています。しかし、そんな図書館員の時給を見てみると最低賃金ギリギリで、このままでは働き手がいなくなってしまうのか、そうなっては図書館を維持できなくなりはないかと心配しています。
- 家の中でも情報を得たり参加できれば、よいと思う。
- 在学中は、放課後等デイサービスでいろいろな経験ができていたので良いと思うが卒業後の就労等は考えるが、生涯学習となるとなかなかイメージができない。いろいろな助けが必要になると思うと難しい気がしている。
- 学びたいという意欲はあるが、一般就労しているので休みの日は、体を休めているので暇がないです。（のんびり過ごすのも必要!!!）
- 今の所、学びたいと思うような学習は無いようです。このようなアンケートがあるだけでもとても恵まれていると思います。
- 習い事をしていたが外出できなくなり（コロナウイルス対策により）さみしいです。学べる場がもっとほしいです。友達との交流がたのしみでした。
- 障害者の居場所があればいい。
- スキルを習得できる環境があまりない。会社などで、生かせるスキルを学べる場があれば行きたい。生涯学習は、障害者個人だと、あまり長つづきしない。
- 支えんしていても自分の課題があまり見えないような時もあるし日によっては出来ない時もある 自分の余暇をしていても、生活をするなか余暇を優先してしまえば、生活リズムがみだれるし、学ぶ場所を少しでもできればいいなと思っています
- これからも仕事ができるようにおねがいします
- その子の特技を生かせる、その特技によって生活できる職場を拡充してほしい。
- 八戸市の最寄りの夜間大学は北海学園大学なので、八戸市が青森県内にも夜間部が開校すればいい。
- このアンケートですが障害の意味がわかってのアンケートですか？障害がある人の状態別でアンケートをとらないと意味がないと思います。障害者に対してもっと、理解して欲しいです。
- 障がいがある子が学ぼう、習い事をしよう、体を動かそうと思っても、受け入れてくれる事業者や設備が十分でないと感じています。例えば、健康増進の目的でプールに行きたいと思っても、息子がいるのですが、父親がいないと連れて行くことができません。長野県には、障がいがある子が優先的に利用できる施設（スポーツ系の）があり、プール等の着替えも母が息子を、父が娘を連れて行っても利用できる、着替場所があるときいています。八戸は難しいでしょうか？福祉体育館はありますが、福祉系の利用より、一般の方々の利用が多く、予約もとりにくい状況です。福祉とは名ばかりではないでしょうか？
- コロナウイルスが早く終了して、自由に外出すれば学びたいという気持ちもでてくるかもしれないが今は、健康であるためにがまんしている

- 何かの障がい者向けのイベント、必ず青森市、弘前市、八戸市と大きい市でしか開催しないのは気のせいでしょうか？せめてもう少しでも森田や五所川原、つがる市、金木町とか幅広い地域でも開催してほしいです。人口的なものなんですか？学生時期は学校で様々なイベントをやってくれているので不満はないです。卒業後、各施設に丸投げしている感があります。
- 何かを始めてみたい、スポーツをしてみたいという気持ちはあるが、健常者の人に理解してもらえない不安で一步を踏み出せない。そういう場に同行して支援してくれる人がいればいいなと思う。また、そういう方がいるのであれば情報が欲しい。軽度の障がいの方が、学校を卒業してからの生活が充実してないような気がします。
- アンケートがわかりにくい。
- 学校在学中は学べるがたくさんあり資格を取得することもできますが、卒業後も障がいのある子どもたちが気軽に参加できる場や情報がほしいです。障がいのある方達への理解ももっと必要だと思います。
- 分からない事が多い。
- 障害者が集う場所がまったくない。質問は意味がないと思うことばかりです。通所している施設をみつけることもむずかしい今です。その施設とて本人にあっているとは思ってませんし、えらべるほどの数もなければサービスもひどいものです。せめて、リクレーションをさせてくれるようなサービスがあれば、人生たのしくなるのと思う。
- 数検の勉強をして覚えられるように頑張ります。
- オムツをしていて、体も大きいのでトイレが大変で、外出がむずかしいです。
- 障害者でもパソコンなどのデジタル関係の勉強が出来る場所が欲しいです。車を持っていないので、バスの本数などが少なく、出かけにくいです。個人でも、どんな支援を受けられるのか知りたいです。役場や、病院で書類等の堂々巡りは止めてもらいたい。欲しい時に、生活弱者に対しての情報が欲しいです。ピアサポーターを増やして欲しいです。情報が少なすぎて、どこで何をやっているのか分かりません。作業所なのに仕事がきつすぎです。助すけて下さい。
- 特別支援学校卒業後も国語・算数などを継続して学べる場所がほしい。（指導者は退職教員などは可能か？）現状は、特別支援学校高等部にもなると、作業学習の時間が多くなり、学科学習に伸びしろを残したまま卒業してしまう。漢字や計算を学ぶことは、本人の自立した生活や仕事の面にも良い成果をもたらすはず。
- 学校を卒業すると楽しめる仲間や社会との関わりが少なくなり心配です。働く場所以外にも、友人や楽しめる、継続的に通える、人生を豊かに生きがいを感じられる所や機会がほしいです。
- 社会的マナーが視覚的に分かる環境が整うことでトラブルが減ると思います。小さい頃から、障害をもっている子どもと、一緒に過ごせるような、標識や文字版などがあると、過ごしやすいのかと思います。今は、ある環境に障害のある子や親たちが合わせたり、工夫をしたりして育児を行っています。大人になった子どもたちに、小さな頃どのような環境だったら、過ごしやすかったのかを聞いてみたいと思います。
- 学習についての意見・希望ではないです。障害者に接する事がある公的な立場（警察・役場等）の人達の理解を含めて学習の場があれば、と思います。病院を含めて。
- 青森市のねむのき会館のトランポリン、陸上に参加させていただきました。半年毎に案内を頂いています。冬季は車の運転が厳しいので、前半の（6月～9月？）の教室に申し込みしています。（コロナになってから行かなくなりましたが…）息子の場合は身体は丈夫で走る事、動く事が好きなのですが、コーチの方の指示が入りません。口頭の指示が通じない障害者向けに、視覚的なツールや動画、もしくは模範指導等、あったらわかりやすいのかなと思います。あと、ボーリングやビリヤード等の娯楽を定期的に企画などがあると良いなと思います。



- 知的障害がある子どもは、高等支援学校へ行き、職業の知識はある程度得られそうだが、高卒の資格がないため、もし、上の学校へ進学やもっと専門的な知識を身につけたいと思っても、難しい現実がある。（サポートが必要）誰もが願望を叶えられる世の中であってほしい。
- 生涯学習により、成長や可能性が広がると思いますので生涯学習の場が増えたり、充実することを望みます。
- 生涯学習についてあまり考えていなかった為、これから意識して情報収集をします。（親）
- どのような事が生涯学習と言われるものなのか、よく分らない。学校やデイサービスがなくなり、自宅で頭を使わなくなる分障害の度合いがひどくなるんじゃないかと心配。就労後のデイサービスの所が欲しい。
- まだ高等養護学校に通っている為、学校中心の生活です。今後は、色々な活動が必要になるとは思います、その時に学校からの案内etcがあれば、助かると思います。どの様な事があるのかも分からない状態なので…
- 公共のバス等で行ける屋内で体を動かせる場所がほしい。
- 学習する場所（会場）に行く交通手段が大きな壁となっています。近くにバス停がないので親の送迎が必要。
- 一般の社会の仕事で障害者をあつかっている仕事がしたい。
- 障害のレベルに合わせた施設があってほしい。
- 障害関係なく、やりたい事がみつかった時は見守って行きたいと思っています。
- 健常者も障害者（知的もふくめて）すべての人が、地域でいっしょに学習・活動できるようにしてほしい。  
（大きい市ばかりでなく）トランポリン、ボッチャ、カーリングの案内で行う物など、子どもから、大人まで、障害あるなしわけへだてなく、学び活動できる場を作ってひろめてほしい。そうすることで、障害者も、その家族も、いっしょに外出もしやすくなる、その一助になると思う。買い物にもいけない、こだわりがある子ならなおさらいけない。でも普通に社会参加していきたいのです。生きているのですから。学問や、講座といったもの以外でも、スポーツ教室とかでもいいので！
- 家の近くに活動する場所がないからわからないです。
- やる気が全くなくユーチューブとかばかりを見ていたりするのでできれば障害者専用の携帯やSNSの制限をかけられるシステムがほしい。現在高1なので…。
- 障害のある方の生涯学習の機会や、社会の理解が増えれば良いと思います。
- スポーツ観戦、時代劇を見る。
- 特にありません。成人になって一般の会社に行ってます。
- アンケートをとるのはいいですけど、そもそも良くしていきたいとか本当に考えてくれているのか不明です。ここ何年かで何か変わったりしていますか？手続きばかりふえる一方で、自分達の為に何かプラスになるものがあるとは思ってません。
- バドミントン、バレーやりたい。
- 普段やることもなく親とただら過ごしているだけなので自分で打ち込めるもの、時間を忘れるくらい集中できて本人が楽しいと感じることを見つけたい。今はiPadでユーチューブを見るくらいです。
- 卓球やりたい。

- 知的障害者は年齢があがるにつれ、学習レベルUPの為の勉強はどんどん減ってくる。学校でのアンケートでは書きにくい事も沢山ある。子供だけでなく親へのアプローチがもっと多く欲しい。伸びる時期への働きかけで変わる事も多いかもしれない。親がやり方がわからないと学校にあがってからでは間に合わないことばかり。勉強に対しては小学校が一番良い。高校は社会に出た時のための事が優先。卒業後は全く期待出来ない。※すみません学校への事ばかりでした。高校を卒業するとほとんどは施設での生活か家での生活で、どこかで趣味やスポーツを続けるのは難しいと思います。数少ないしどこに行けばいいかわからないし連れて行くのも親が年をとると難しい。
- 学校を卒業する、18才以上になると参加できる講座やイベント、教室が急に少なくなります。一般の方と同じ内容をするには少しサポートしていただけるだけで、色々幅広くチャレンジできると思います。
- 運動したい時に、運動する場所が近くにない。
- 学校卒業後の余暇活動が少なく残念です。ねむの木会館のスポーツ教室には参加したりしますがあと他の施設の情報がありません。参加しても能力の差が大きく、補助して下さるスタッフも少なく長く続けられないのが残念です。（保護者より）
- 障がいのある方が学校卒業後、施設へ行く方がほとんどであるがその施設内では全般的な学習（例えば学校で行っているような学習）をする機会はほぼなく、又、職員配置上の問題、又、施設の特色都合上等々の問題もあり本人がせっかく身に付けた事学習出来た事が活かされず、これが障がいのある方の認知的退行となっている点が多い。特に生活介護では施設で特に行わせられる事もなく本人の力でのみで余暇を過ごさせている点、又、そのような施設でも多く生涯学習に繋げる、結ばせるような活動をしているところは極々、少ないと思われる。もう少し、社会全体でどのように障がい特性を活かして学習させることが出来るかを考える必要がある。これには、世間の認識もそうだが国レベルで働く人々も正しく障がい者を知る必要が望まれると思う。
- 健常者と一緒の席はやはり無理があると思う…。同じ様な境遇の仲間達と励ましあって人生を乗り越えていて欲しい。（障害が重すぎても合わないし、仕事の話をし合う人がいないのが困る）特別学習でなくても、地域社会で役立つ様に、お買い物会とか地元の宿泊施設（ホテルや旅館）でおとまり会なんかも楽しそう。（家族も助かる）自立に向けた学習の機会がたくさんあると本人も家族も嬉しいし助かる。
- 時計が好きなので、たくさん情報が欲しい。
- 本人のやる気がないのでこれから卒業して働いてみて意識が変わることを願っています。
- 障害者だけの習い事、サークルが少ないと感じます。障害児だけの遊べる公園がほしかったです。うちの子は重度障害なので中学生や高校生でも滑り台などで遊びたいのですが周りの目が気になって公園へいけませんでした。料金が発生してもいいのでのびのび遊べる場所がほしかったです。
- 学びたいと思う事がどこにあるかわからない。

## 第3章 考察

### 調査結果から見える「障害のある方の生涯学習」の現状

弘前大学 教育学部 准教授 越村 康英

#### はじめに

誰もが（国民一人一人が）、いつでも（その生涯にわたって）、どこでも（あらゆる機会、あらゆる場所において）学ぶことができる「生涯学習社会」の実現が目指されて久しい。しかし、「障害のある方の生涯学習」については、「教育と福祉の谷間」の問題として見過ごされ、行政施策の面でも立ち遅れているのが現状である。

今回、青森県教育委員会によって「障害のある方の生涯学習に関するアンケート」調査が実施されたことは重要な転機である。800 人もの県民から寄せられた回答（切実な声）を読み解き、「障害のある方の生涯学習」の充実に資する具体的な手立てを早急に講じていくことが期待される。

本稿では、そのための議論の素材となることも意識しながら、学校卒業後に（学校在学中の場合は学校以外で）続けている学習活動や、これから取り組んでみたい学習活動に関する【問9】、生涯学習をめぐる状況に関する【問12】への回答に焦点を当て、調査結果から見える「障害のある方の生涯学習」の現状について整理を試みたい。

（調査結果を捉える上で留意しておきたいこと）

- \*本調査では、「障害の種類」によって回答数が大きく異なっており「知的障害」が60.8%を占めている。調査結果を見る際には、このことをふまえておく必要がある。また、「障害の種類」を区分して調査結果を捉えることも重要となる。
- \*本調査には「障害の程度」についての設問がなく、程度の軽重が生涯学習に及ぼしている影響までは把握できないという限界がある。
- \*調査結果には、障害のある「本人」の回答の他に、「家族や支援者」による回答が44.9%の割合で含まれている。このことは「本人」だけでなく、身近な人々の現状認識や期待も調査結果に反映されていることを意味する。

#### 1 学校以外で続けている学習活動【問9】

##### （1）学習活動を続けている人の割合

【問9】【問6】の結果を用いて以下のように計算したところ、学校卒業後に（学校在学中の場合は学校以外で）学習活動を続けている人の割合は59.6%となった。また、「学校在学中であり、学校以外でも学習活動を続けている人」の割合は66.1%なのに対し、「学校在学中以外で、学習活動を続けている人」の割合は55.0%に留まっている。

内閣府「生涯学習に関する世論調査」（令和4年度）によれば、この1年くらいの間、月1回以上、何らかの学習活動を行った人の割合は74.8%に上るという計算になる。青森県教育委員会「障害のある方の生涯学習に関するアンケート」調査との単純比較はできないが、この数値の差に、障害のある方が学習活動を行う上での社会的な障壁や困難の大きさが表れているように思われる。

<計算方法>

学校以外で学習活動を続けている人	「回答総数 (800)」 - 「問9・無回答 (223)」 = 577 「577」 - 「問9・特になし (233)」 = 344 「344」 ÷ 「577」 = 59.6%
学校在学中であり、 学校以外でも学習活動を続けている人	「問6・学校在学中 (309)」 - 「問9・無回答 (91)」 = 218 「218」 - 「問9・特になし (74)」 = 144 「144」 ÷ 「218」 = 66.1%
学校在学中以外で、 学習活動を続けている人	「回答総数 (800)」 - 「問6・無回答 (30)」 = 770 「770」 - 「問6・学校在学中 (309)」 = 461 「461」 - 「問9・無回答 (119)」 = 342 「342」 - 「問9・特になし (154)」 = 188 「188」 ÷ 「342」 = 55.0%

(2) 続けている学習活動

【障害の種類別】にクロス集計を行ったものが表1である。

いずれの「障害の種類」群においても、20%を超えるのは「健康の維持・増進、スポーツ活動」と「余暇・レクリエーション活動」の2項目のみである。また、「特になし」の比率が高いことも共通しており、知的障害・精神障害では30%を超えている。

表1：続けている学習活動（障害の種類別） ※複数回答

	身体障害等 (N=155)		知的障害 (N=486)		精神障害 (N=136)		発達障害 (N=276)	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
ア. 学校で学んだ内容の維持・再学習	26	16.8%	65	13.4%	10	7.4%	48	17.4%
イ. 余暇・レクリエーション活動	40	25.8%	112	23.0%	30	22.1%	69	25.0%
ウ. 文化芸術活動	8	5.2%	27	5.6%	16	11.8%	20	7.2%
エ. 健康の維持・増進、スポーツ活動	43	27.7%	115	23.7%	29	21.3%	70	25.4%
オ. 個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習	30	19.4%	71	14.6%	23	16.9%	47	17.0%
カ. 社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	19	12.3%	67	13.8%	19	14.0%	44	15.9%
キ. 仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習	19	12.3%	34	7.0%	12	8.8%	18	6.5%
ク. 一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高めしてくれる人間関係等に関する学習	15	9.7%	47	9.7%	11	8.1%	30	10.9%
ケ. 大学等への進学	1	0.6%	2	0.4%	0	0.0%	2	0.7%
コ. その他	0	0.0%	5	1.0%	0	0.0%	5	1.8%
サ. 特になし	36	23.2%	154	31.7%	41	30.1%	66	23.9%
無回答	45	29.0%	130	26.7%	33	24.3%	74	26.8%

\* [問4] と [問9] (ア～サ) のクロス集計

\* 「視覚」「聴覚」「肢体不自由 (車椅子、ストレッチャー等が必要)」「肢体不自由 (車椅子、ストレッチャー等が不要)」「音声・言語・そしゃく機能障害、内部障害」を含めて「身体障害等」として集計した。

次に、【学校在学中】と【学校在学中以外】に分けてクロス集計を行ったものが表2である。

両群で同程度の比率となっている項目も見られるが、「仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習」を除けば、全般的に「学校在学中以

外」群の方が比率は低くなっている。逆に、「特になし」は、「学校在学中」群よりも約10%高く、33.4%である。

本調査の自由記述欄には、「高校を卒業するとほとんどは施設での生活か家での生活で、どこかで趣味やスポーツを続けるのは難しい」「在学中は、放課後等デイサービスでいろいろな経験ができていたので良いと思うが、卒業後の就労等は考えるが、生涯学習となるとなかなかイメージできない」など、学校卒業後に学習活動を行う場・機会がないことを指摘する声がいくつも寄せられている。表2が示す数値にも、こうした厳しい現実が表れている。

表2：続けている学習活動（学校在学中か否か） ※複数回答

	学校在学中 (N=309)		学校在学中以外 (N=461)	
	回答数	比率	回答数	比率
ア. 学校で学んだ内容の維持・再学習	71	23.0%	27	5.9%
イ. 余暇・レクリエーション活動	69	22.3%	90	19.5%
ウ. 文化芸術活動	23	7.4%	25	5.4%
エ. 健康の維持・増進、スポーツ活動	72	23.3%	107	23.2%
オ. 個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習	54	17.5%	61	13.2%
カ. 社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	52	16.8%	52	11.3%
キ. 仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習	19	6.1%	41	8.9%
ク. 一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高めしてくれる人間関係等に関する学習	33	10.7%	44	9.5%
ケ. 大学等への進学	2	0.6%	3	0.7%
コ. その他	4	1.3%	4	0.9%
サ. 特になし	72	23.3%	154	33.4%
無回答	91	29.4%	119	25.8%

\* [問6] と [問9] (ア～サ) のクロス集計

\* 学校在学中の母数 (N=309) は、[問6] における「コ. 学校在学中」の回答数である。また、学校在学中以外の母数 (N=461) は、[問6] に対する総回答数より、「コ. 学校在学中」及び「無回答」の数を除いたものである。

## 2 取り組んでみたい学習活動 [問9]

【障害の種類別】にクロス集計を行ったものが表3、【学校在学中】と【学校在学中以外】に分けてクロス集計を行ったものが表4である。表3と表1、表4と表2をそれぞれ比較してみると、「続けている学習活動」には留まらない多様な学習ニーズが見えてくる。

### (1) 障害の種類別の状況

まずは、表3と表1についてである。先述のとおり、「続けている学習活動」で20%を超えているのは、いずれの「障害の種類」群においても同じ2項目であった。他方、「取り組んでみたい学習活動」として20%を超えているのは、「身体障

害等」群で3項目、「知的障害」群と「精神障害」群で5項目、「発達障害」群では6項目に増えている。「健康の維持・増進、スポーツ活動」や「余暇・レクリエーション活動」を始めたい／継続したいとのニーズが高いと言える。また、「個人の生活」「社会生活」「職業生活」に役立つ学習活動を求める比率も高く、その背後には「少しでも暮らしを安定・充実させたい」という至極当然で切実な願いがあると思われる。こうした切実な願いをきちんと受け止めて、「障害のある方の生涯学習」の推進方策を検討・具体化していくことが肝心である。

さらに、「一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係等に関する学習」を求める人の比率も高く、「文化芸術活動」についても一定のニーズが見られる。これらについては、公民館や博物館・美術館など、地域の社会教育施設としての役割が期待される場所でもあり、「何ができるか」「何をすべきか」を掘り下げ、積極的にチャレンジしていくことが求められる。

表3：取り組んでみたい学習活動（障害の種類別） ※複数回答

	身体障害等 (N=155)		知的障害 (N=486)		精神障害 (N=136)		発達障害 (N=276)	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
シ. 学校で学んだ内容の維持・再学習	20	12.9%	60	12.3%	22	16.2%	43	15.6%
ス. 余暇・レクリエーション活動	38	24.5%	106	21.8%	22	16.2%	62	22.5%
セ. 文化芸術活動	21	13.5%	55	11.3%	17	12.5%	35	12.7%
ソ. 健康の維持・増進、スポーツ活動	42	27.1%	132	27.2%	37	27.2%	93	33.7%
タ. 個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習	33	21.3%	120	24.7%	37	27.2%	90	32.6%
チ. 社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	28	18.1%	121	24.9%	33	24.3%	92	33.3%
ツ. 仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習	22	14.2%	111	22.8%	45	33.1%	81	29.3%
テ. 一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係等に関する学習	30	19.4%	85	17.5%	32	23.5%	65	23.6%
ト. 大学等への進学	9	5.8%	24	4.9%	9	6.6%	14	5.1%
ナ. その他	2	1.3%	14	2.9%	6	4.4%	8	2.9%
ニ. 特になし	20	12.9%	82	16.9%	20	14.7%	29	10.5%
無回答	49	31.6%	148	30.5%	41	30.1%	68	24.6%

\* [問4] と [問9] (シ～ニ) のクロス集計

\* 「視覚」「聴覚」「肢体不自由（車椅子、ストレッチャー等が必要）」「肢体不自由（車椅子、ストレッチャー等が不要）」「音声・言語・そしゃく機能障害、内部障害」を含めて「身体障害等」として集計した。

## (2) 学校在学中とそれ以外の状況

表4：取り組んでみたい学習活動（学校在学中か否か） ※複数回答

	学校在学中 (N=309)		学校在学中以外 (N=461)	
	回答数	比率	回答数	比率
シ. 学校で学んだ内容の維持・再学習	58	18.8%	38	8.2%
ス. 余暇・レクリエーション活動	86	27.8%	71	15.4%
セ. 文化芸術活動	45	14.6%	45	9.8%
ソ. 健康の維持・増進、スポーツ活動	116	37.5%	85	18.4%
タ. 個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習	118	38.2%	82	17.8%
チ. 社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	118	38.2%	78	16.9%
ツ. 仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習	109	35.3%	84	18.2%
テ. 一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高めしてくれる人間関係等に関する学習	83	26.9%	59	12.8%
ト. 大学等への進学	23	7.4%	23	5.0%
ナ. その他	7	2.3%	13	2.8%
ニ. 特になし	25	8.1%	92	20.0%
無回答	67	21.7%	171	37.1%

\* [問6] と [問9] (シ～ニ) のクロス集計

\* 学校在学中の母数 (N=309) は、[問6] における「コ. 学校在学中」の回答数である。また、学校在学中以外の母数 (N=461) は、[問6] に対する総回答数より、「コ. 学校在学中」及び「無回答」の数を除いたものである。

次に、表4と表2についてである。

「学校在学中」群では、「続けている学習活動」として20%を超えているのが3項目であったが、「取り組んでみたい学習活動」では6項目に増えている。なお、6項目中、「健康の維持・増進、スポーツ活動」及び「個人の生活」「社会生活」「職業生活」に役立つ学習活動の4項目は35%以上の比率となっており、かなり高いニーズがある。

「学校在学中以外」群では、「取り組んでみたい学習活動」として20%を超える項目は一つもないが、各項目にわたって一定のニーズが見られる。しかし、「特になし」という回答も20.0%を占めており、学習活動の場・機会、サポートがないことなどに起因するような「あきらめ感」、ある種の強制性を伴う勉強的・訓練的な学習の経験に起因するような「学習への抵抗感」をもつ人も少なくないと推察される。

また、学校在学中か否かに関わらず「大学等への進学」を希望する方も少なくない。このこととも関係して、先進事例に学びながら、「オープンカレッジ」（主に知的障害のある方を対象として、大学が、その学術資源を活かし学習機会を提供する取り組み）の実施や、学校教育法（第58条）に基づく特別支援学校高等部への「専攻科」の設置などについても検討を進めることが必要ではないだろうか。

### 3 学習活動の形態〔問9〕

先述のとおり、本調査の結果から計算すれば、学校卒業後に（学校在学中の場合は学校以外で）学習活動が続いている人の割合は **59.6%** となる。では、その人たちは、どのような形態で学習活動が続いているのだろうか。それを、【学校在学中】と【学校在学中以外】に分けてクロス集計したものが表5である。

表5：学習活動の形態（学校在学中か否か） ※複数回答

	学校在学中 (N=235)		学校在学中以外 (N=307)	
	回答数	比率	回答数	比率
ア.書籍やテキスト	31	13.2%	41	13.4%
イ.テレビやラジオ	54	23.0%	80	26.1%
ウ.インターネット	74	31.5%	75	24.4%
エ.自分の学校や同窓会等が主催する学びの場	42	17.9%	22	7.2%
オ.同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	17	7.2%	20	6.5%
カ.職場の教育、研修	5	2.1%	39	12.7%
キ.障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動	41	17.4%	62	20.2%
ク.公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座や教室	4	1.7%	14	4.6%
ケ.その他	11	4.7%	10	3.3%
コ.特になし	4	1.7%	13	4.2%
無回答	8	3.4%	7	2.3%

\*〔設問6〕と〔設問11〕のクロス集計

\*「学校在学中」(N=309)及び「学校在学中以外」(N=461)のうち、それぞれ〔設問9〕において「サ.特になし」以外を選択した人の回答を集計した。

「学校在学中」群では、「インターネット」の比率が最も高く31.5%、次いで「テレビやラジオ」が23.0%という結果である。「学校在学中以外」群でも、順位は逆転するが、「テレビやラジオ」が26.1%、「インターネット」が24.4%と上位である。また、学校在学中か否かにかかわらず、「書籍やテキスト」も一定の比率となっている。本調査の自由記述欄に「今はiPadでユーチューブを見るぐらいです」のような記載が複数あるように、テレビやラジオの情報系番組や学習系YouTubeなどを視聴したり、本を読んだりしながら学習するという形態が中心になっていると推察される。このような学習形態を否定するものではないが、それらを積極的に選択しているというよりは、そうせざるを得ない孤立した学習状況が広がっているのではないだろうか。

他方、他者と共に学び合える機会として、「学校在学中」群では「自分の学校や同窓会等が主催する学びの場」が17.7%、放課後等デイサービスなどの「障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動」が17.3%となっている。また、「学校在学中以外」群でも、「障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動」の比率は20.2%と高く、重要な機会となっているものと思われる。しかし、それ以外の選択が可能な人は限られており、「公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座や教室」で学習している人は、「学校在学中」群では1.7%、「学校在学中以外」群でも4.6%と少



ない。また、「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」に参加して学習している人は、いずれの群においても7%前後にとどまっている。

#### 4 生涯学習をめぐる状況認識－障害の種類別〔質問12〕

学習活動に影響する①～⑫の事柄への認識について、【障害の種類別】にクロス集計したものが表6である。

表6：生涯学習をめぐる状況認識（障害の種類別）

	身体障害等 (N=155)		知的障害 (N=486)		精神障害 (N=136)		発達障害 (N=276)	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
①生涯学習に関する情報がある	38	24.5%	126	25.9%	40	29.4%	85	30.8%
②生涯学習の機会がある	33	21.3%	120	24.7%	37	27.2%	77	27.9%
③生涯学習への参加を物理的に妨げる要因がある	72	46.5%	123	25.3%	27	19.9%	65	23.6%
④学びたいと思ったときに相談する人がいる	65	41.9%	263	54.1%	69	50.7%	136	49.3%
⑤生涯学習をサポートする仕組みがある	34	21.9%	140	28.8%	40	29.4%	77	27.9%
⑥学ぼうとする障害者に対する社会の理解がある	46	29.7%	171	35.2%	59	43.4%	89	32.2%
⑦学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがある	78	50.3%	210	43.2%	58	42.6%	129	46.7%
⑧生涯学習に充てる時間がある	75	48.4%	247	50.8%	69	50.7%	148	53.6%
⑨一緒に学習する友人、仲間がいる	30	19.4%	143	29.4%	34	25.0%	83	30.1%
⑩生涯学習にかかる費用が負担になっている	36	23.2%	112	23.0%	48	35.3%	84	30.4%
⑪外出すること自体に困難を感じる	72	46.5%	146	30.0%	52	38.2%	89	32.2%
⑫学びたいという意欲がある	88	56.8%	248	51.0%	72	52.9%	154	55.8%

\*〔問4〕と〔問12〕のクロス集計

\*「視覚」「聴覚」「肢体不自由（車椅子、ストレッチャー等が必要）」「肢体不自由（車椅子、ストレッチャー等が不要）」「音声・言語・そしゃく機能障害、内部障害」を含めて「身体障害等」として集計した。

\*①②③⑤⑥⑦⑧⑩に該当する回答数は、「とてもある」「ある」の合計

④⑨に該当する回答数は、「たくさんいる」「いる」の合計

⑩に該当する回答数は、「とてもなっている」「なっている」の合計

⑪に該当する回答数は、「とても感じる」「感じる」の合計

##### （1）生涯学習に関する情報と機会〔①・②〕

いずれの「障害の種類」群でも同じように、情報や機会が「ある」と感じている人は20～30%程度と少ない。また、いずれの「障害の種類」群においても、僅差であるが、情報よりも機会の方が「ある」と感じている人の比率は低くなっている。

本調査の自由記述欄には、「学習意欲はあるが、イベントとかお知らせ等を耳にする機会がないのが現状」「もっと学びの場や、交流の場、情報などが豊富であってほしい」「学びたい事があり、情報が入ってきても、それに対する学びの場が少なく受け入れて頂けない」「障害者だけの習い事、サークルが少ない」などの声が

いくつも寄せられているように、障害がある方の70%以上が、生涯学習に関する情報も機会も「ない」と感じている。

(2) 参加を物理的に妨げる要因／学ぶ場に出かけていこうとする気持ち／外出に対する困難〔③・⑦・⑪〕

「生涯学習への参加を物理的に妨げる要因がある」「外出すること自体に困難を感じる」という比率が最も高いのは「身体障害等」群であり、いずれも46.5%である。背景に、建物や交通機関などの「物理的な障壁」があることは言うまでもなく、それらを取り除いていくための努力や移動支援の充実が必要である。

また、「身体障害等」以外の3つの群においても、外出に対する困難を感じている比率は30%を超えており、決して低いわけではない。「物理的な障壁」のみならず、障害があることを理由に資格を制限されるような「制度的な障壁」、点字・音声案内や手話通訳・要約筆記などが不足しているというような「情報面の障壁」を無くしていくことも重要である。さらには、本調査の自由記述欄に「健全者の人に理解してもらえないか不安で一步を踏み出せない」「周りの目が気になって公園に行けませんでした」「学ぼうとする障害者に社会の理解はほぼない」などの声が寄せられているように、障害のある方を偏見の目で見たり、哀れんだりするような「意識上の障壁」が根深く存在していることにも目を向けていく必要がある。たとえば、公民館の事業（主催講座）として、障害に関する正確な「知識」を獲得し、障害のある方との「かかわり」を通じて障害理解を深めていけるような学習機会を積極的に作り出していくことも、「学ぼうとする障害者に対する社会の理解」を広げるためには大切な手立てとなるだろう。

障害のある方の「学ぶ場に出ていこうとする気持ち」を後押ししていくためにも、こうした「物理的な障壁」「制度的な障壁」「情報面の障壁」「意識上の障壁」を着実に取り払っていかなければならない。

## 5 生涯学習をめぐる状況認識－学校在学中か否か〔質問12〕

次に、学習活動に影響する①～⑫の事柄への認識について、【学校在学中】と【学校在学中以外】に分けてクロス集計を行ったものが表7である。両群を比較してみると、「⑦学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがある」「⑧生涯学習に充てる時間がある」「⑨一緒に学習する友人、仲間がいる」「⑫学びたいという意欲がある」という事柄への認識に大きな違いが見られる。

表7：生涯学習をめぐる状況認識（学校在学中か否か）

	学校在学中 (N=309)		学校在学中以外 (N=461)	
	回答数	比率	回答数	比率
①生涯学習に関する情報がある	86	27.8%	125	27.1%
②生涯学習の機会がある	85	27.5%	112	24.3%
③生涯学習への参加を物理的に妨げる要因がある	82	26.5%	101	21.9%
④学びたいと思ったときに相談する人がいる	156	50.5%	227	49.2%
⑤生涯学習をサポートする仕組みがある	94	30.4%	120	26.0%
⑥学ぼうとする障害者に対する社会の理解がある	108	35.0%	174	37.7%
⑦学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがある	155	50.2%	181	39.3%
⑧生涯学習に充てる時間がある	179	57.9%	196	42.5%
⑨一緒に学習する友人、仲間がいる	109	35.3%	118	25.6%
⑩生涯学習にかかる費用が負担になっている	98	31.7%	112	24.3%
⑪外出すること自体に困難を感じる	98	31.7%	129	28.0%
⑫学びたいという意欲がある	190	61.5%	210	45.6%

\* [問6] と [問12] のクロス集計

\* 学校在学中の母数 (N=309) は、日中の主な活動に関する [質問6] における「コ.学校在学中」の回答数である。  
学校在学中以外の母数 (N=461) は、[問6] に対する総回答数より、「コ.学校在学中」及び「無回答」の数を除いたものである。

\* ①②③⑤⑥⑦⑧⑫に該当する回答数は、「とてもある」「ある」の合計

⑨に該当する回答数は、「たくさんいる」「いる」の合計

⑩に該当する回答数は、「とてもなっている」「なっている」の合計

⑪に該当する回答数は、「とても感じる」「感じる」の合計

### (1) 学ぶ場に出かけていこうとする気持ち／学びたいという意欲 [⑦・⑫]

「⑦学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがある」という比率は、「学校在学中」群では 50.2% であるのに対し、「学校在学中以外」群では 39.3% となっており、後者の方が 10.9% 低い。「⑫学びたいという意欲がある」という比率についても同様で、「学校在学中」群は 61.5%、「学校在学中以外」群では 45.6% と、15.9% の差が出ている。表4において、「取り組んでみたい学習活動」が「特になし」という比率が、「学校在学中」群で 8.1% であるのに対し、「学校在学中以外」群では 20.0% という結果となっていることとも共通していると考えられる。

先にも述べたように、「学校在学中以外」群には、年齢を重ねる過程で様々なことを経験し、厳しい現実も目の当たりにするなかで、「あきらめ感」や「学習への抵抗感」を抱く人が多いとも言えるのではないだろうか。また、加齢に伴う心身の変化や障害の重度化のほか、「学校在学中」群よりも生涯学習に充てる時間が「ない」という人の割合が高いことなども関係しているものと思われる。

生涯学習は、決して強制されるものではなく、みずからの自発的意思によって行うことを基本とするものである。当然、「学習活動を行いたくない」「学習活動は行わない」という意思や判断も尊重されるべきである。しかし、「あきらめ感」

などから学習への欲求が抑え込まれた状態の人もいるとすれば、その人自身がみずからの学習欲求を掘り起こしていけるような伴走的支援も大切になってくるだろう。

## (2) 相談できる人〔④〕

いずれの群においても、約半数の人が「学びたいと思ったときに相談する人がいる」と回答している。この比率を高いと見るか否かは一概に判断することはできないが、相談できる人が身近にいることは重要である。

家族はもとより、特別支援学校の教師、障害福祉サービス事業所や福祉行政の専門職員などが主な相談相手となっているのではないだろうか。そうであれば、これらの人が、生涯学習に関する情報を幅広く入手・共有できるような体制や仕組みを整えていくことも大切である。

また、5-（1）に述べたことと関連して、特別支援学校の教師や福祉の専門職員には、専門性を活かし、障害のある方が自らの学習欲求を掘り起こしていけるような伴走的支援にも、意識的に取り組んでいくことが求められるのではないだろうか。

## (3) 一緒に学習する友人、仲間〔⑨〕

本調査の自由記述欄には、「学校を卒業すると楽しめる仲間や社会との関わりが少なくなり心配です。働く場所以外にも、友人や楽しめる、継続的に通える、人生を豊かに生きがいを感じられる所や機会がほしいです」「家で一人で黙々と学習するより、他者とのコミュニケーションや、教えていただく喜びを味わえたらと思います」との声が寄せられている。これらの願いの切実さを示すように、「⑨一緒に学習する友人、仲間がいる」という人の比率は、「学校在学中」群でも35.3%に留まっており、「学校在学中以外」群では25.6%と約10%も低くなっている。

他者と共に学ぶこと、学ぶことを通じて他者や地域とのつながりを広げる／深めることは、生涯学習の醍醐味の一つである。障害を理由に制約を受けず、誰もがその醍醐味を味わえるような学習の場・機会とはどのようなものを模索し、身近な地域において実現していくことが喫緊の課題である。

同じく自由記述欄には、「障害がある、ないに関わらず、皆が同じように何かを学び、共に生きるような世の中になってほしい」「健常者も障害者（知的もふくめて）もすべての人が、地域でいっしょに学習・活動できるようにしてほしい」との意見がある一方、「健常者と一緒の席はやはり無理があると思う…。同じような境遇の仲間達と励ましあって人生を乗り越えて行ってほしい」との意見も出されている。どちらが正しいということではなく、障害のある方の生涯学習の場・機会の在り方を考えていく上で、「一緒に学習する友人、仲間」の存在をどのように捉えるのかも重要な論点となるだろう。

## おわりに

障害者権利条約への批准（2014年）が、国や地方公共団体における「障害者の生涯学習」に関する政策的な取り組みを促す主要な契機となっている。それは、青森県においても同様である。

それでは、おわりに、条約（第24条・第1項）を確認しておきたい。

### 第24条 教育

1 締約国は、教育についての障害者の権利を認める。締約国は、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等として実現するため、障害者を包容するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習を確保する。当該教育制度及び生涯学習は、次のことを目的とする。

- (a) 人間の潜在能力並びに尊厳及び自己の価値についての意識を十分に発達させ、並びに人権、基本的自由及び人間の多様性の尊重を強化すること。
- (b) 障害者が、その人格、才能及び想像力並びに精神的及び身体的な能力をその可能な最大限度まで発揮させること。
- (c) 障害者が自由な社会に効果的に参加することを可能とすること。

青森県では、教育長からの諮問を受け、第16期生涯学習審議会において「障害者の生涯学習の振興方策について」の議論が進められているところである。今回の調査結果を手がかりとしながら、まずは「障害のある方の生涯学習」をめぐる現状を正確に把握していくことが重要である。そして、条約（第24条）にも示されているように、「教育についての障害者の権利」（生涯にわたる学習権）を基軸に据え、障害のある方が、生涯学習を通じて自ら能力や可能性を開花させ、広く社会に参加していくことを支えられるような、建設的・具体的な方策を打ち出せるのかが問われている。

## II 障害のある県民の生涯学習を推進するためのバリア除去と連携体制

八戸学院大学 健康医療学部 講師 大木 えりか

### はじめに

第 16 期の青森県生涯学習審議会は、「障害者の生涯学習の推進方策について」検討することを中核としている。そのもとで、今回の「障害者の生涯学習に関する実態調査」（令和 4 年度）は、障害のある人における生涯学習の現状と課題を明らかにし、ニーズを探り、当事者の生涯学習の参加を促進するための方策について検討することを目的として実施されたものである。

障害のある人の生涯学習に関連する国際的な取り決めとして、わが国が 2014 年に締結した「障害者権利条約」がある。この条約においては、第 30 条に「文化的な生活、レクリエーション、余暇及びスポーツへの参加」が規定されている。生涯学習は、障害のある人に保障されるべき「文化的な生活、レクリエーション、余暇及びスポーツへの参加」の権利に大きく影響を与えるものである。

本稿においては、生涯学習が障害のある人に保障されるべき権利であるという視点を基盤とし、今回実施された「障害者の生涯学習に関する実態調査」（令和 4 年度）の結果をもとに、障害のある青森県民の生涯学習に対するアクセス状況を把握する。その上で、障害のある青森県民の生涯学習に対するニーズを抽出し、今後の課題を示す。

### 1 障害のある県民の生涯学習に対するアクセス状況

障害のある県民の生涯学習に対するアクセス状況を把握するために、本調査の問 8 において、「障害のある県民が学びたいと思ったときに、学べる機会が身近にあるか」と質問している。回答結果は【表 1】に示し、「とてもある・ある」と回答した分を「○」、「あまりない、ない」と回答した分を「×」の欄にまとめた。⑧「体を動かす場や機会は身近にありますか」を除く 9 項目の設問について、必要な情報・場や機会が「とてもある・ある」と回答した人の割合が、いずれも半数以下という結果となっているのは吟味すべき点である。この点から、生涯学習に関する情報に対しても、学ぶための場や機会に対しても、障害のある県民が十分にアクセスできているとは言い難い現状が確認できる。

「情報」と「場や機会」の関連をみると、①②「知りたいことを学びたいときに必要な情報・場や機会」、⑤⑥「文化や芸術ときに必要な情報・場や機会」、⑨⑩「仲間と学び合うときに必要な情報・場や機会」については、情報よりも場や機会へのアクセスがしづらい傾向がみられる。

一方、③④「身につけたい技術があるときに必要な情報・場や機会」、⑦⑧「体を動かしたいと思うときに必要な情報・場や機会」については、場や機会よりも情報へのアクセスがしづらい傾向がみられる。技術の習得や運動の機会については、当

【表 1】必要な「情報」へのアクセス状況と障害の関係 \*問 4×問 8-①③⑤⑦⑨のクロス集計

	①知りたいこと		③身につけたい技術		⑤文化や芸術		⑦体を動かす		⑨仲間と学び合う	
	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×
身体障害(視覚)	35.3%	58.8%	29.4%	64.7%	35.3%	58.8%	29.4%	64.7%	23.5%	64.7%
身体障害(聴覚)	50.0%	50.0%	31.8%	63.6%	40.9%	54.5%	31.8%	68.1%	22.7%	68.1%
身体障害(肢体不自由 車椅子、ストレッチャー等が必要)	34.4%	59.4%	21.9%	65.6%	21.9%	62.5%	31.3%	59.4%	18.8%	71.9%
身体障害(肢体不自由 車椅子、ストレッチャー等が不要)	44.5%	42.6%	31.5%	51.9%	40.8%	48.2%	42.6%	48.2%	26.0%	55.5%
知的障害	40.2%	47.4%	29.0%	55.3%	31.5%	52.5%	40.8%	46.3%	31.5%	55.6%
精神障害	45.6%	38.9%	37.5%	46.4%	38.2%	40.4%	41.9%	41.9%	30.9%	48.5%
発達障害(自閉症あり)	44.1%	47.3%	31.7%	56.5%	36.6%	51.6%	43.0%	51.7%	28.0%	60.2%
発達障害(自閉症なし)	38.9%	52.2%	26.6%	64.5%	32.3%	56.7%	37.8%	54.4%	31.1%	58.9%
音声・言語・そしゃく機能障害、内部障害	30.0%	66.6%	10.0%	86.6%	23.4%	70.0%	26.7%	70.0%	16.7%	80.0%
その他	46.3%	43.9%	31.7%	56.1%	34.1%	51.2%	41.4%	43.9%	34.1%	58.5%

事者や家族の意思で情報収集することによらずとも、学校のカリキュラムや施設のルーティンによってある程度得られていると推察される。しかし、③④「身につけたい技術」については、「情報」「場や機会」とともに、ほかの生涯学習の分野と比較するとアクセスが少ない。障害の状況によっては、技術を習得するというニーズが小さい場合もあると考えられるが、生活において必要な技術や災害時の対応等、生涯学習を通してできるだけ身につけた方がよい技術は多く存在する。

また、「身につけたい技術」のなかには、障害のある人の就労における職能の維持向上に不可欠なものもある。したがって、「身につけたい技術」を学ぶための「場や機会」にアクセスしづらい状況は、検討すべき重要課題であると考えられる。

ただし、いずれも障害の状況によっては逆の傾向が表れているため、【表 1】【表 2】で個別に確認されたい(例:「身につけたい技術」について、身体障害(視覚)のある人は「場や機会」へのアクセスの方が少ない)。

障害のある人の生涯学習に関連している調査として、内閣府が実施している全国規模の調査「令和 4 年度 障害者に関する世論調査」(令和 4 年 11 月調査)がある。この調査は、全国の日本国籍を有する 18 歳以上の者を対象としており、「国や地方公共団体への要望」と問う質問において、「障害のある子どもの相談・支援体制や教育と、障害のある人への生涯学習の充実」をあげた者の割合が 55.0%と高い結果となっている。障害のある子どもに対する政策の強化も含まれており、純粋に障害のある人への生涯学習の充実が非常に望まれているとは言い切れない。しかし、障害児者に対する学習を充実させる政策について、「力を入れるべき」と考えている人の割合が高いということは、障害のある人の社会参加に対する関心が高まっていることが期待できる。

【表 2】 学ぶための「場や機会」へのアクセス状況と障害の関係 \*問 4×問 8-②④⑥⑧⑩のクロス集計

	②知りたいこと		④身につけたい技術		⑥文化や芸術		⑧体を動かす		⑩仲間と学び合う	
	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×
身体障害(視覚)	29.4%	64.7%	17.7%	70.6%	41.2%	52.9%	29.4%	64.7%	29.4%	58.8%
身体障害(聴覚)	40.9%	59.1%	36.4%	59.1%	40.9%	54.5%	54.5%	45.4%	22.7%	68.2%
身体障害(肢体不自由 車椅子、ストレッチャー等が必要)	40.7%	50.0%	31.3%	59.4%	25.1%	62.5%	40.6%	53.1%	34.4%	59.4%
身体障害(肢体不自由 車椅子、ストレッチャー等が不要)	33.4%	55.5%	31.5%	51.9%	33.4%	55.6%	53.8%	40.8%	31.5%	53.7%
知的障害	33.5%	54.3%	24.9%	60.0%	27.2%	59.0%	45.9%	44.2%	35.8%	52.1%
精神障害	33.8%	51.5%	33.1%	50.8%	28.6%	52.2%	42.6%	44.1%	28.7%	53.0%
発達障害(自閉症あり)	35.0%	57.0%	26.9%	62.9%	31.1%	58.1%	46.2%	48.4%	33.4%	55.9%
発達障害(自閉症なし)	28.9%	63.3%	23.3%	68.9%	25.6%	66.7%	37.8%	55.5%	30.0%	60.0%
音声・言語・そしゃく機能障害、内部障害	13.3%	83.3%	10.0%	86.7%	13.3%	80.0%	30.0%	70.0%	16.6%	80.0%
その他	34.1%	56.1%	36.6%	46.4%	24.4%	63.4%	46.4%	36.6%	34.2%	58.5%

## 2 生涯学習へのアクセスをしづらくしているバリア

1で述べたように、障害のある人の生涯学習へのアクセスについては、「情報」「場や機会」ともに十分とは言えないことがわかった。障害のある県民の生涯学習を推進するためには、どのような背景によって障害のある県民の生涯学習が妨げられるバリアが生み出されているのかを多角的な視点に基づいて検討することが不可欠である。そのため、自由記述による回答結果については、どのような背景が顕著なものとしてあるのかを量的にも質的にもとらえられるよう吟味することが必要である。

このような状況を生み出している背景を探り、そこから障害のある人のニーズを抽出するために、問 13「障害のある方の生涯学習について、ご意見やご希望があればお書きください」に回答された自由記述に対してアフターコーディング<sup>※1</sup>を実施した。その結果、【図 1】に示されるように、生涯学習へのアクセスしづらくしているバリアが浮かび上がった。おもにコーディング数が 10 以上のコードをとりあげつつ、コーディング数が 10 以下のコードとの関連をみながら、生涯学習へのアクセスしづらくしているバリアが生じる背景を吟味する。なお、自由記述の内容が多岐にわたるものについては、コードをカテゴリーとしてそのもとにさらにコーディングして別図に示している。

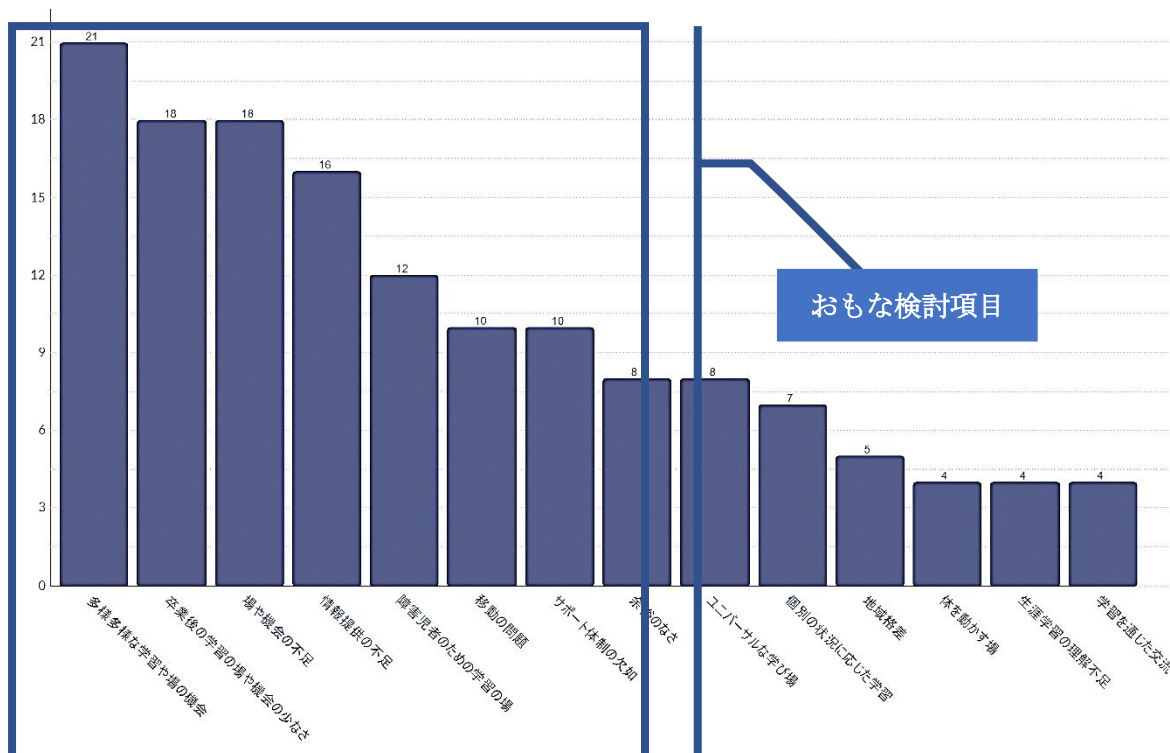
### (1) 多種多様な学習の場や機会の必要性

既存の生涯学習の場が少ないという意見も多いが、それよりもむしろ「生涯学習の方法や内容が多種多様でない」ということの方が、アクセスしづらくしてい

※1 自由記述の中から類似の選択肢をまとめカテゴリーに分類する手法。



【図1】生涯学習へのアクセスしづらくしているバリア \*自由記述回答のアフターコーディングによる



るバリアを生じさせていると考えられる。具体的には、「資格取得や各種専門分野に応じた学習がしたい」「就労に役立つ学習の機会が少ない」「地域で自立した生活を営むための学習の場が欲しい」といったニーズがあげられる。これらのような、地域生活や就労の継続に直結する学習ニーズのある当事者の中には、特別支援学校卒

【図2】当事者や家族が不足していると考えている学習の場や機会



\* 「多様な学習の場や機会」にコーディングされた記述をさらにコード化したもの

では高卒資格がないため、受験資格が得られないケースが多いという問題もあげられており、生涯学習の範囲を超えて、高等教育・専門教育を受ける権利が保障されていないととらえられる深刻な課題もある。

## (2) 卒業後の学習の場や機会の少なさ

学校卒業後の生涯学習については、「生涯学習ないしは生涯学習につながる活動をしている場がない」との指摘が多い。在学生とその家族は、本人が卒業した後の生活における生涯学習についてイメージしにくく、学習の場や機会が極めて少なくなることに對して大きな不安を抱いている。同様に、施設を利用している当事者とその家族も、学校を卒業すると参加できる講座やイベント、教室が急激に減り、生活の大半を施設か自宅で過ごしており、生活が単調になっていると指摘している。

障害のある人の支援施設における日中活動は、当事者とその家族にとって必ずしも生活に彩りを与えるものではないことが推察される。福祉的就労の範疇にある施設内の仕事に従事することは、生産的活動として意義がある一方で、ややもすると単純作業に終始する毎日を長期にわたり繰り返す生活に陥らせることになる。回答の中には、「学校やデイサービスがなくなると、障害の状況が悪化するのではないかと心配」「卒業後は生活リズムが整わず、だらだらした生活になっている」「学校を卒業して数年経っており、参加できそうなものを広報で探している」という深刻な懸念や状況を示したものもある。

教育基本法第3条においては、生涯学習の理念として、「自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができる」ようになることがうたわれている。しかし、自らの意思で生涯学習の場を選択しづらく、社会的参加が制約されやすい障害のある人の場合、生涯学習は社会生活の基盤を整える役割を果たす不可欠な活動として保障されるものと考えられる。

## (3) 情報提供・場や機会の不足

「生涯学習についての情報や資料がない」という回答においては、生涯学習の紹介としてインターネットや紙媒体の資料に一括してまとめられていないことに對し、不便さを指摘されているのが特徴的である。生涯学習の情報そのものが少ないというよりも、生涯学習という枠組みでまとめられて情報提供されていないため、インターネットで検索するにも労力と時間を費やしてしまうという現状がうかがえる。生涯学習についての情報数の不足というより、情報提供の方法が課題だと言える。

生涯学習の場や機会が身近にない状況については、量的に不足している状況と合わせて、「(場があっても) 障害を理由に受け入れてもらえない」という課題も挙げられている。

なお、情報提供・場や機会の不足については、主に人口規模の差による「地域格差」があるということも検討すべき課題である。ただ、青森市や八戸市におけ

る生涯学習の状況に言及している回答をみると、これらの中核市においても、生涯学習の情報や気軽に学べる場所が少ないと感じられることが指摘されている。

単に人口が少ないところは生涯学習の場が少ないという見解は適切ではなく、障害のある人やその家族が生涯学習にアクセスしやすいように効果的な情報提供がなされているか、障害のある人の参加を促しやすい学びの場が形成されているかといった基準に基づいた評価が必要であろうと考えられる。

#### (4) 障害児者のための学習の場

学習の場のあり方についての意見として、「障害児者のための学習の場」「ユニバーサルな学びの場」の二つに大別される。どちらの意見が多いのかについては、選択肢による回答ではないため量的な判断は難しい。それでも、自由記述において、「障害のある人同士の居場所となるようなコミュニティがほしい」「同じ様な境遇の仲間達と励まし合う場がほしい」というニーズは多く確認される。とりわけ、重度の障害のある当事者や家族に特徴的な回答として、「一般の人と一緒に気が引ける」「障害の程度が重いと活動できるものがほとんどない」「知的障害があり、中高生でも公園の遊具で遊ばせたいが周囲の目が気になる」といったものに着目される。障害の程度や発達段階に応じて、当事者も家族ものびのびと楽しめる学習の場が求められていることが見出される。後述する「サポート体制の欠如」の項目にも関連するが、ケアができるサポート体制を整えるなどして、障害のある人を優先する学習の場の環境整備も必要とされている。

一方で、「障害のある人もない人もともに、地域で一緒に学んだり活動したりしたい」「生涯学習の場にマナーやルールがわかる視覚的なツールがほしい」というように、ユニバーサルな学びの場の必要性を上げる声も少なくない。加えて、ユニバーサルな学びの場づくりを通して、「障害に対する社会の理解の促進」を図ることの必要性を指摘する回答も多い。

このように、障害のある人の生涯学習の場のあり方については、相反する意見が表出されている点が興味深く、着目すべき点である。今後、障害のある人の生涯学習の場づくりを展開させていく上で、相反する「障害児者のための学習の場」「ユニバーサルな学びの場」の均衡を保つことを考える必要がある。今回のアンケートにおいて、「障害児者のための学習の場」を求めた回答者も「ユニバーサルな学びの場」を求めていることが想定され、また逆についても同様である。

#### (5) 移動の問題

学習へのアクセスに対する物理的なバリアとして、「移動のための交通手段が乏しい」という状況があげられており、それにより生涯学習への参加が妨げられている人は少なくない。公共交通機関の利便性の高低については地域によって差があるため、自由記述の回答数としては、生涯学習の情報や場や機会に関するものよりは少ない結果となっている。しかし、市街地から遠い場所や町村に在住する人は、公共交通機関の利便性が低く、生涯学習の場にアクセスするのに家族の運

転に頼らざるをえない状況がうかがえる。

#### (6) サポート体制の欠如

障害のある人が生涯学習に参加できない、あるいは数回参加できてもなかなか継続できない理由として、「学習の場にサポートしてくれるスタッフがいない、少ない」ことがあげられている。先に取り上げた「障害児者のための学習の場」において述べたように、生涯学習の場において、当事者が学習しやすくなるためのケアができるサポート体制がない現状がある。障害のある人同士の居場所であれ、一般的な生涯学習の場であれ、障害のある人が参加しやすくなるための体制づくりを進めていくことが求められている。

### 3 学校卒業時における生涯学習へのシームレスな接続

先述したように、「卒業後の学習の場や機会の少なさ」の項目において回答結果を吟味した結果、障害のある当事者や家族にとって、卒業後の学習の場や機会が少ないことから生じる不安や社会参加の制約が大きいことがわかった。

学校卒業時に、学校の学習から卒業後の生涯学習へシームレスに接続しうるためには、当事者が卒業年度を迎えた時期に、地域にある生涯学習に関するさまざまな資源を本人が卒業後に活用できるよう支援するカリキュラムがあるとよいと考えられる。自由記述の回答においても指摘があったが、「高校で学ぶことは、就労を中心とした社会に出たときに有用なことが優先される」という現状がある。さらに、就労に必要な学習においても、「仕事をこなすのに必要な学習が優先される」という状況が回答で述べられている。

障害のある人の進路について、従来の「就労か施設通所か」の二者択一から脱却し、「卒業後にどのように社会参加するのか」という視点から考える過程が必要だと考えられる。その過程においては、当事者の自己選択・自己決定による生涯学習への参加が不可欠である。

### 4 福祉・医療・労働分野との連携

自由記述の回答においては、「生涯学習の場への移動について、福祉事業所との連携を検討する必要がある」「医療ニーズの高い人が安心して生涯学習に参加できるようにしてほしい」「勤務先から就労に役立つ生涯学習の情報がほしい」というように、生涯学習の実践に対しては、福祉・医療・労働の分野との連携体制の必要性が示唆されている。

「障害児者のための学習の場」の項目において述べたように、とりわけ重度の障害のある人が生涯学習に参加することを促進するためには、ケアができるサポート体制を整える必要性が見出される。こうしたサポート体制をつくるには、福祉・医療・労働分野をはじめとするさまざまな関連分野と連携を図る必要がある。

さまざまな関連分野と連携を図る意義は、サポート体制の構築にとどまるものではない。それぞれの分野の専門的見地から、個々の当事者にある学びのニーズに対してふさわしい学習の内容・場・方法等を提案することにより、学習成果と活動の継続が見込まれる。

## おわりに

今回の調査によって得られた回答結果を考察するにあたり、障害のある県民の生涯学習を妨げているバリアの背景について探り、そのバリアを除去するために必要であると考えられる視点や体制について導き出すことを試みた。回答結果を分析し、考察を加えることにより、障害のある県民の生涯学習をめぐる現状と課題が見出された。

あらためて、障害のある当事者の自己選択・自己決定の必要性を確認したが、令和の時代を迎えた現在でも改善されていない現状がみてとれる。特別支援学校から「就労か施設通所か」の二者択一といったレールの上を、障害のある人が歩いているという状況を改善していくことが喫緊の課題であると考えられる。

さらに、「障害のある人もない人も、同じ場で、同じ学習に参加する」という一義的な考え方に陥りやすいことにも留意しなければならないと考える。「障害のある人もない人も」という考え方に関するものとして、厚生労働省が「ニッポン一億総活躍プラン」（平成28年）や『『地域共生社会』の実現に向けて』（平成29年）に基づいて地域共生社会の実現を提案していることが挙げられる。地域共生社会のコンセプトそのものは重要であり、障害のある人の生涯学習の参加を促進することは地域共生社会の実現の一環である。しかし、共生社会のあり方を考え、その理念を生涯学習によって実現しようとするときに、同時に当事者とその家族のニーズが満たされるものでなければならない。いかなる場合においても、「障害のある人もない人も、同じ場で、同じ学習に参加する」ことは現実的ではなく、場合によっては社会的排除を生み出すことにもなりかねない。障害のある人自身が主体的に、どのような内容の学習を、どのような場で、どのような方法で学ぶかを選択し、決定することで、生涯学習の意義が大きくなることが期待できる。

## 第4章 資料

### 調査結果単純集計表

◎結果数値（パーセント＝％）は、少数第2位を四捨五入して少数第1位まで表示しています。

◎標準の有効回答数はn=800となります。複数回答ならびに質問で分岐する際はn値が変動します。

1 ご回答される方はどなたですか。当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.障害のある方ご本人	321	40.1%	40.6%	40.6%
イ.家族や周囲の人の支援を受けながらご本人が回答	111	13.9%	14.0%	54.6%
ウ.家族や支援者が回答	359	44.9%	45.4%	100.0%
合計	791	98.9%	100.0%	
欠損値 無回答	9	1.1%		
合計	800	100.0%		

2 障害のある方の性別、年代を教えてください。それぞれ当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

(性別)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.男性	486	60.8%	62.6%	62.6%
イ.女性	279	34.9%	36.0%	98.6%
ウ.回答しない	11	1.4%	1.4%	100.0%
合計	776	97.0%	100.0%	
欠損値 無回答	24	3.0%		
合計	800	100.0%		

(年代)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.10代（10才～19才）	315	39.4%	40.1%	40.1%
イ.20代（20才～29才）	111	13.9%	14.1%	54.2%
ウ.30代（30才～39才）	105	13.1%	13.4%	67.6%
エ.40代（40才～49才）	106	13.3%	13.5%	81.0%
オ.50代（50才～59才）	79	9.9%	10.1%	91.1%
カ.60代（60才～69才）	54	6.8%	6.9%	98.0%
キ.70代（70才～79才）	14	1.8%	1.8%	99.7%
ク.80代以上（80才～）	2	0.3%	0.3%	100.0%
合計	786	98.3%	100.0%	
欠損値 無回答	14	1.8%		
合計	800	100.0%		

3 障害のある方がお住まいの市町村を教えてください。

(居住地区名)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
東青地区	253	31.6%	32.0%	32.0%
中南地区	136	17.0%	17.2%	49.2%
西北地区	72	9.0%	9.1%	58.4%
上北地区	87	10.9%	11.0%	69.4%
下北地区	56	7.0%	7.1%	76.5%
三八地区	176	22.0%	22.3%	98.7%
その他	10	1.3%	1.3%	100.0%
合計	790	98.8%	100.0%	
欠損値 無回答	10	1.3%		
合計	800	100.0%		

(居住地区分)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
市	664	83.0%	84.1%	84.1%
町または村	116	14.5%	14.7%	98.7%
その他	10	1.3%	1.3%	100.0%
合計	790	98.8%	100.0%	
欠損値 無回答	10	1.3%		
合計	800	100.0%		

4 障害のある方の障害の種類や状況を教えてください。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.身体障害（視覚）	17	2.1%		
イ.身体障害（聴覚）	22	2.8%		
ウ.身体障害（肢体不自由 車椅子、ストレッチャー等が必要）	32	4.0%		
エ.身体障害（肢体不自由 車椅子、ストレッチャー等が不要）	54	6.8%		
オ.知的障害	486	60.8%		
カ.精神障害	136	17.0%		
キ.発達障害（自閉症あり）	186	23.3%		
ク.発達障害（自閉症なし）	90	11.3%		
ケ.音声・言語・そしゃく機能障害、内部障害	30	3.8%		
コ.その他	41	5.1%		
欠損値 無回答	14	1.8%		
合計	1108	138.5%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

5 障害のある方は障害者手帳をお持ちですか。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.身体障害者手帳	130	16.3%		
イ.愛護手帳（療育手帳）	596	74.5%		
ウ.精神障害者保健福祉手帳	120	15.0%		
エ.障害者手帳は持っていない	6	0.8%		
欠損値 無回答	8	1.0%		
合計	860	107.5%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

6 障害のある方は日中、主にどのような活動をしていますか。当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.企業等で、一般の従業員と一緒に働いている	135	16.9%	17.5%	17.5%
イ.自営業をしている	1	0.1%	0.1%	17.7%
ウ.障害者総合支援法のサービスを利用している	282	35.3%	36.6%	54.3%
エ.介護保険の通所サービスを利用している	8	1.0%	1.0%	55.3%
オ.病院などのデイケアを利用している	3	0.4%	0.4%	55.7%
カ.リハビリテーションを受けている	1	0.1%	0.1%	55.8%
ク.家庭内で過ごしている	11	1.4%	1.4%	57.3%
コ.学校在学中	309	38.6%	40.1%	97.4%
サ.その他	20	2.5%	2.6%	100.0%
合計	770	96.3%	100.0%	
欠損値 無回答	30	3.8%		
合計	800	100.0%		

7 障害のある方は、ふだん生涯学習に関する情報をどのようなものから得ていますか。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.新聞・雑誌・書籍	242	30.3%		
イ.テレビ・ラジオ	380	47.5%		
ウ.インターネット（webサイト）	242	30.3%		
エ.インターネット（SNS等）	126	15.8%		
オ.口コミ	110	13.8%		
カ.公民館・図書館等のチラシ・ポスター	44	5.5%		
キ.市町村の広報紙、町内会の回覧や掲示板等	124	15.5%		
ク.学習情報専門誌（紙）	19	2.4%		
ケ.オープンキャンパス等教育機関が開催している説明会	20	2.5%		
コ.職場（就労先）	131	16.4%		
サ.相談支援機関や福祉センター等	142	17.8%		
シ.同好会・サークル	17	2.1%		
ス.その他	43	5.4%		
セ.特にない	111	13.9%		
欠損値 無回答	11	1.4%		
合計	1762	220.3%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える



8 障害のある方が学びたいと思ったときに、学べる機会が身近にありますか。それぞれ当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

①知りたいことを学びたいと思うとき、必要な情報はありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	48	6.0%	6.2%	6.2%
イ.ある	283	35.4%	36.4%	42.6%
ウ.あまりない	271	33.9%	34.9%	77.5%
エ.ない	96	12.0%	12.4%	89.8%
オ.必要としていない	79	9.9%	10.2%	100.0%
合計	777	97.1%	100.0%	
欠損値 無回答	23	2.9%		
合計	800	100.0%		

②知りたいことを学ぶための場や機会は身近にありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	34	4.3%	4.4%	4.4%
イ.ある	237	29.7%	30.5%	34.8%
ウ.あまりない	308	38.5%	39.6%	74.4%
エ.ない	122	15.1%	15.7%	90.1%
オ.必要としていない	77	9.6%	9.9%	100.0%
合計	778	97.2%	100.0%	
欠損値 無回答	22	2.8%		
合計	800	100.0%		

③身に付けたい技術があるときに、必要な情報はありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	40	5.0%	5.2%	5.2%
イ.ある	209	26.2%	26.9%	32.1%
ウ.あまりない	294	36.8%	37.9%	70.0%
エ.ない	139	17.3%	17.9%	87.9%
オ.必要としていない	94	11.8%	12.1%	100.0%
合計	776	97.0%	100.0%	
欠損値 無回答	24	3.0%		
合計	800	100.0%		

④身に付けたい技術を学べる場や機会は身近にありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	31	3.9%	4.0%	4.0%
イ.ある	190	23.8%	24.4%	28.4%
ウ.あまりない	290	36.3%	37.2%	65.6%
エ.ない	170	21.2%	21.8%	87.4%
オ.必要としていない	98	12.3%	12.6%	100.0%
合計	779	97.4%	100.0%	
欠損値 無回答	21	2.6%		
合計	800	100.0%		

⑤文化や芸術に触れたいと思うときに、必要な情報はありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	33	4.1%	4.3%	4.3%
イ.ある	231	28.9%	29.8%	34.0%
ウ.あまりない	280	35.0%	36.1%	70.1%
エ.ない	125	15.5%	16.1%	86.2%
オ.必要としていない	107	13.4%	13.8%	100.0%
合計	776	97.0%	100.0%	
欠損値 無回答	24	3.0%		
合計	800	100.0%		

⑥文化や芸術に触れる場や機会は身近にありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	30	3.8%	3.9%	3.9%
イ.ある	190	23.8%	24.5%	28.4%
ウ.あまりない	320	40.1%	41.2%	69.6%
エ.ない	143	17.8%	18.4%	88.0%
オ.必要としていない	93	11.6%	12.0%	100.0%
合計	776	97.0%	100.0%	
欠損値 無回答	24	3.0%		
合計	800	100.0%		

⑦体を動かしたいと思うときに、必要な情報はありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	51	6.4%	6.6%	6.6%
イ.ある	273	34.2%	35.1%	41.7%
ウ.あまりない	259	32.4%	33.3%	75.0%
エ.ない	112	13.9%	14.4%	89.4%
オ.必要としていない	82	10.3%	10.6%	100.0%
合計	777	97.1%	100.0%	
欠損値 無回答	23	2.9%		
合計	800	100.0%		

⑧体を動かす場や機会は身近にありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	52	6.5%	6.7%	6.7%
イ.ある	312	39.0%	40.1%	46.7%
ウ.あまりない	236	29.5%	30.3%	77.0%
エ.ない	117	14.5%	15.0%	92.0%
オ.必要としていない	62	7.8%	8.0%	100.0%
合計	779	97.4%	100.0%	
欠損値 無回答	21	2.6%		
合計	800	100.0%		

⑨仲間と遊びたいと思うときに、必要な情報はありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	34	4.3%	4.4%	4.4%
イ.ある	216	27.0%	27.7%	32.1%
ウ.あまりない	278	34.8%	35.6%	67.7%
エ.ない	150	18.6%	19.2%	86.9%
オ.必要としていない	102	12.8%	13.1%	100.0%
合計	780	97.5%	100.0%	
欠損値 無回答	20	2.5%		
合計	800	100.0%		

⑩仲間と学び合う場や機会は身近にありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	39	4.9%	5.0%	5.0%
イ.ある	228	28.5%	29.4%	34.5%
ウ.あまりない	259	32.4%	33.4%	67.9%
エ.ない	158	19.6%	20.4%	88.3%
オ.必要としていない	91	11.4%	11.7%	100.0%
合計	775	96.9%	100.0%	
欠損値 無回答	25	3.1%		
合計	800	100.0%		

- 9 障害のある方が学校卒業後、生涯学習（学校以外での学習や文化・スポーツ、趣味等）で続けていることはなんですか。  
（特別支援学校高等部・高等支援学校生徒は、学校以外で学習や文化・スポーツ、趣味等で続けていることは何ですか）  
また、これから取り組んでみたいことはなんですか。それぞれ当てはまるすべての記号に○をつけてください。

**(続けていること)**

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.学校で学んだ内容の維持・再学習	103	12.9%		
イ.余暇・レクリエーション活動	163	20.4%		
ウ.文化芸術活動	49	6.1%		
エ.健康の維持・増進、スポーツ活動	188	23.5%		
オ.個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習	122	15.3%		
カ.社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	109	13.6%		
キ.仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習	63	7.9%		
ク.一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係等に関する学習	79	9.9%		
ケ.大学等への進学	6	0.8%		
コ.その他	9	1.1%		
サ.特になし	233	29.1%		
欠損値 無回答	223	27.9%		
合計	1347	168.4%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

**(取り組んでみたいこと)**

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
シ.学校で学んだ内容の維持・再学習	98	12.3%		
ス.余暇・レクリエーション活動	160	20.0%		
セ.文化芸術活動	96	12.0%		
ソ.健康の維持・増進、スポーツ活動	206	25.8%		
タ.個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習	206	25.8%		
チ.社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	202	25.3%		
ツ.仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習	199	24.9%		
テ.一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係等に関する学習	150	18.8%		
ト.大学等への進学	48	6.0%		
ナ.その他	21	2.6%		
ニ.特になし	125	15.6%		
欠損値 無回答	248	31.0%		
合計	1759	219.9%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

【設問9で「サ」以外を回答した方はお答えください】

- 10 障害のある方が生涯学習（学校以外での学習や文化・スポーツ、趣味等）を続けている理由はなんですか。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。

n= 567

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.様々な経験を通して成長するため	185	32.6%		
イ.暮らしの中で生じる課題の解決を図るため	116	20.5%		
ウ.仕事において必要性を感じたため	110	19.4%		
エ.地域や社会におけるボランティア活動などに生かすため	25	4.4%		
オ.健康の維持・増進のため	166	29.3%		
カ.他の人と交流したり、友人を得たりするため	151	26.6%		
キ.人生を豊かにするため	154	27.2%		
ク.教養を深めるため	68	12.0%		
ケ.その他	12	2.1%		
コ.特になし	10	1.8%		
欠損値 無回答	23	4.1%		
合計	1020	179.9%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

【設問9で「サ」以外を回答した方はお答えください】

- 11 障害のある方は、生涯学習（学校以外での学習や文化・スポーツ、趣味等）をどのようにして続けていますか。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。

n= 567

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.書籍やテキスト	74	13.1%		
イ.テレビやラジオ	138	24.3%		
ウ.インターネット	152	26.8%		
エ.自分の学校や同窓会等が主催する学びの場	66	11.6%		
オ.同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	39	6.9%		
カ.職場の教育、研修	46	8.1%		
キ.障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動	107	18.9%		
ク.公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座や教室	18	3.2%		
ケ.その他	23	4.1%		
コ.特になし	17	3.0%		
欠損値 無回答	19	3.4%		
合計	699	123.3%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

12 障害のある方の、生涯学習（学校以外での学習や文化・スポーツ、趣味等）をめぐる状況について、当てはまるもの一つを選び、記号に○をつけてください。

①生涯学習に関する情報がありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	19	2.4%	2.5%	2.5%
イ.ある	199	24.9%	26.5%	29.1%
ウ.あまりない	360	44.9%	48.0%	77.1%
エ.ない	172	21.5%	22.9%	100.0%
合計	750	93.7%	100.0%	
欠損値 無回答	50	6.3%		
合計	800	100.0%		

②生涯学習の機会がありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	16	2.0%	2.1%	2.1%
イ.ある	186	23.3%	24.8%	27.0%
ウ.あまりない	341	42.7%	45.5%	72.5%
エ.ない	206	25.7%	27.5%	100.0%
合計	749	93.6%	100.0%	
欠損値 無回答	51	6.4%		
合計	800	100.0%		

③生涯学習への参加を物理的に妨げる要因（階段の段差、多目的トイレの有無等）はありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	38	4.8%	5.1%	5.1%
イ.ある	151	18.9%	20.4%	25.5%
ウ.あまりない	236	29.5%	31.9%	57.4%
エ.ない	315	39.3%	42.6%	100.0%
合計	740	92.5%	100.0%	
欠損値 無回答	60	7.5%		
合計	800	100.0%		

④学びたいと思ったときに相談する人がいますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.たくさんいる	31	3.9%	4.1%	4.1%
イ.いる	364	45.4%	48.4%	52.5%
ウ.あまりない	237	29.7%	31.5%	84.0%
エ.いない	120	15.0%	16.0%	100.0%
合計	752	94.0%	100.0%	
欠損値 無回答	48	6.0%		
合計	800	100.0%		

⑤生涯学習をサポートする仕組みがありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	15	1.9%	2.0%	2.0%
イ.ある	205	25.7%	27.4%	29.4%
ウ.あまりない	348	43.6%	46.5%	75.9%
エ.ない	180	22.4%	24.1%	100.0%
合計	748	93.5%	100.0%	
欠損値 無回答	52	6.5%		
合計	800	100.0%		

⑥学ぼうとする障害者に対する社会の理解がありますか。

	回答数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	20	2.5%	2.7%	2.7%
イ.ある	269	33.7%	36.4%	39.2%
ウ.あまりない	322	40.3%	43.6%	82.8%
エ.ない	127	15.8%	17.2%	100.0%
合計	738	92.2%	100.0%	
欠損値 無回答	62	7.8%		
合計	800	100.0%		

⑦学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがありますか。

	回答数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	64	8.0%	8.5%	8.5%
イ.ある	285	35.7%	38.0%	46.5%
ウ.あまりない	268	33.5%	35.7%	82.3%
エ.ない	133	16.5%	17.7%	100.0%
合計	750	93.7%	100.0%	
欠損値 無回答	50	6.3%		
合計	800	100.0%		

⑧生涯学習に充てる時間がありますか。

	回答数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	36	4.5%	4.8%	4.8%
イ.ある	346	43.2%	46.5%	51.3%
ウ.あまりない	262	32.8%	35.2%	86.6%
エ.ない	100	12.5%	13.4%	100.0%
合計	744	93.0%	100.0%	
欠損値 無回答	56	7.0%		
合計	800	100.0%		

⑨一緒に学習する友人、仲間がいますか。

	回答数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.たくさんいる	29	3.6%	3.9%	3.9%
イ.いる	204	25.5%	27.3%	31.2%
ウ.あまりない	258	32.3%	34.6%	65.8%
エ.いない	255	31.8%	34.2%	100.0%
合計	746	93.2%	100.0%	
欠損値 無回答	54	6.8%		
合計	800	100.0%		

⑩生涯学習にかかる費用が負担になっていますか。

	回答数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもなっている	45	5.6%	6.2%	6.2%
イ.なっている	172	21.4%	23.5%	29.7%
ウ.あまりなっていない	298	37.3%	40.8%	70.5%
エ.なっていない	216	27.0%	29.5%	100.0%
合計	731	91.4%	100.0%	
欠損値 無回答	69	8.6%		
合計	800	100.0%		

⑪外出すること自体に困難を感じますか。

	回答数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とても感じる	63	7.9%	8.4%	8.4%
イ.感じる	173	21.5%	22.9%	31.3%
ウ.あまり感じない	271	33.9%	35.9%	67.2%
エ.感じない	247	30.9%	32.8%	100.0%
合計	754	94.2%	100.0%	
欠損値 無回答	46	5.8%		
合計	800	100.0%		

⑫学びたいという意欲がありますか。

	回答数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア.とてもある	85	10.6%	11.4%	11.4%
イ.ある	326	40.7%	43.6%	55.0%
ウ.あまりない	228	28.5%	30.5%	85.5%
エ.ない	108	13.5%	14.5%	100.0%
合計	747	93.4%	100.0%	
欠損値 無回答	53	6.6%		
合計	800	100.0%		



# しょうがい 障害のある方 かつ しょうがいがくしゅう 生涯学習に関するアンケート

あおもりけんきょういくちょうしょうがいがくしゅうか  
青森県教育庁生涯学習課

## ちよう さ きょうりょく ねが 【アンケート調査へご協力のお願い】

このアンケートは、あおもりけんきょういく い いんかい 青森県教育委員会が、「しょうがい 障害のある方 かつ しょうがいがくしゅう 生涯学習」をじゅうじつ 充実したものに  
するために、げんじょう 現状やニーズ、かだいどう 課題等をはあく 把握するためにじっし 実施するものです。

個人が特定されることはありませんので、あんしん 安心してごかいとう 回答ください。

このアンケート結果は、あおもりけんきょういく い いんかい 青森県教育委員会のホームページにけいさい 掲載します。

### しょうがいがくしゅう 『生涯学習』とは

このアンケートでしよう 使用する「しょうがいがくしゅう 生涯学習」とは、がっこう い がい 学校以外でのがくしゅう 学習やぶんか 文化・スポーツ、しゅみどう 趣味等のかつどう 活動のことです。

## きにゅう 【ご記入にあたって】

- 1 このちよう さ 調査は無記名です。(おなまえ 名前を書くところはありません)
- 2 しょうがい 障害のある方 かつ ほんにん 本人がちよくせつ 直接答えるほか、かぞく 家族やしせつ 施設の方に聞いてきた 答える、しょうがい 障害のある方のだいに 代理でかぞく 家族やしせつ 施設の方が答えることができます。
- 3 かいとう 回答は、このちよう さ 調査用紙に、ちよくせつ 直接、きにゅう 記入ください。

## へんそう ねが 【ご返送のお願い】

どうふう 同封のへんしんようふうとう 返信用封筒(きって 切手はいりません)にこのちよう さ 調査用紙をいれ 入れて、れいわ 令和5年 がつ 2月13日までにポストへとうかん 投かんしてくださるようお願いいたします。

### ほんちよう さ かん と あ さき 【本調査に関するお問い合わせ先】

あおもりけんきょういくちょうしょうがいがくしゅうか  
青森県教育庁生涯学習課

〒030-8540 あおもりし ながしまいちよう め ぼん ごう 1番1号 電話017-734-9889 受付：平日8:30～17:15

本調査は、あおもりけんきょういく い いんかい 青森県教育委員会がじっし 実施しておりますが、アンケートのそうふ 送付・かいしゅう 回収等のぎょうむ 業務を「とくてい ひえいり 特定非営利活動法人プラットフォームあおもり」にいたく 委託してじっし 実施しております。

1 ご回答される方はどなたですか。当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

- ア 障害のある方ご本人
- イ 家族や周囲の人の支援を受けながらご本人が回答
- ウ 家族や支援者が回答

2 障害のある方の性別、年代を教えてください。それぞれ当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

- 性別
- ア 男性
  - イ 女性
  - ウ 回答しない
- 年代（回答時点の年齢で選んでください）
- ア 10代(10才～19才)
  - イ 20代(20才～29才)
  - ウ 30代(30才～39才)
  - エ 40代(40才～49才)
  - オ 50代(50才～59才)
  - カ 60代(60才～69才)
  - キ 70代(70才～79才)
  - ク 80代以上(80才～)

3 障害のある方がお住まいの市町村を教えてください。

市・町・村

4 障害のある方の障害の種類や状況を教えてください。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。

- ア 身体障害（視覚）
- イ 身体障害（聴覚）
- ウ 身体障害（肢体不自由） 車椅子、ストレッチャー等が必要)
- エ 身体障害（肢体不自由） 車椅子、ストレッチャー等が不要)
- オ 知的障害
- カ 精神障害
- キ 発達障害（自閉症あり）
- ク 発達障害（自閉症なし）
- ケ 音声・言語・そしゃく機能障害、内部障害
- コ その他（ ）

5 障害のある方は障害者手帳をお持ちですか。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。

- ア 身体障害者手帳
- イ 愛護手帳（療育手帳）
- ウ 精神障害者保健福祉手帳
- エ 障害者手帳は持っていない

6 障害のある方は日中、主にどのような活動をしていますか。当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

- ア 企業等で、一般の従業員と一緒に働いている
- イ 自営業をしている
- ウ 障害者総合支援法のサービスを利用している
- エ 介護保険の通所サービスを利用している
- オ 病院などのデイケアを利用している
- カ リハビリテーションを受けている
- キ 社会活動（ボランティア等）を行っている
- ク 家庭で家事、育児、介護等を行っている
- ケ 家庭内で過ごしている
- コ 学校在学中
- サ その他（ ）

7 障害のある方は、ふだん生涯学習に関する情報をどのようなものから得ていますか。当てはまるものすべての記号に○をつけてください。


- ア 新聞・雑誌・書籍
- イ テレビ・ラジオ
- ウ インターネット（webサイト）
- エ インターネット（SNS等）
- オ 口コミ
- カ 公民館・図書館等のチラシ・ポスター
- キ 市町村の広報紙、町内会の回覧や掲示板等

↓ 次のページに続きます

- ク 学習情報専門誌（紙）  
 ケ オープンキャンパス等教育機関が開催している説明会  
 コ 職場（就労先）  
 サ 相談支援機関や福祉センター等  
 シ 同好会・サークル  
 ス その他（ ）  
 セ 特にない

8 障害のある方が学びたいと思ったときに、学べる機会が身近にありますか。それぞれ、当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

- ① 知りたいことを学びたいと思うとき、必要な情報はありますか。  
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ② 知りたいことを学ぶための場や機会は身近にありますか。  
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ③ 身に付けたい技術があるときに、必要な情報はありますか。  
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ④ 身に付けたい技術を学べる場や機会は身近にありますか。  
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑤ 文化や芸術に触れたいと思うときに、必要な情報はありますか。  
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑥ 文化や芸術に触れる場や機会は身近にありますか。  
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑦ 体を動かしたいと思うときに、必要な情報はありますか。  
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑧ 体を動かす場や機会は身近にありますか。  
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない

 次のページに続きます

⑨ 仲間と学びたいと思うときに、必要な情報はありますか。

ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない

⑩ 仲間と学び合う場や機会は身近にありますか。

ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない

9 障害のある方が学校卒業後、生涯学習（学校以外での学習や文化・スポーツ、趣味等）で続けていることは何ですか。（特別支援学校高等部・高等支援学校生徒は、学校以外で学習や文化・スポーツ、趣味等で続けていることは何ですか）また、これから取り組んでみたいことは何ですか。それぞれ、当てはまるものすべての記号に○をつけてください。

続けていること	取り組んでみたいこと	タテに回答 ↓
ア	シ	学校で学んだ内容の維持・再学習
イ	ス	余暇・レクリエーション活動
ウ	セ	文化芸術活動
エ	ソ	健康の維持・増進、スポーツ活動
オ	タ	個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習
カ	チ	社会生活に必要な知識・スキルに関する学習
キ	ツ	仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習
ク	テ	一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係等に関する学習
ケ	ト	大学等への進学
コ	ナ	その他（ ）
サ	ニ	特になし

サを選んだ方は  
1 2に進んでください

サ以外を選んだ方は  
1 0 → 1 1 → 1 2と順番に進んでください



12 障害のある方の、生涯学習（学校以外での学習や文化・スポーツ、趣味等）をめぐる状況について、当てはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

①生涯学習に関する情報がありますか。

ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

②生涯学習の機会がありますか。

ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

③生涯学習への参加を物理的に妨げる要因（階段の段差、多目的トイレの有無等）はありますか。

ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

④学びたいと思ったときに相談する人がいますか。

ア たくさんいる イ いる ウ あまりいない エ いない

⑤生涯学習をサポートする仕組みがありますか。

ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑥学ぼうとする障害者に対する社会の理解がありますか。

ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑦学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがありますか。

ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑧生涯学習に充てる時間がありますか。

ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑨一緒に学習する友人、仲間がいますか。

ア たくさんいる イ いる ウ あまりない エ いない

⑩生涯学習にかかる費用が負担になっていますか。

ア とてもなっている イ なっている ウ あまりなっていない エ なっていない

↓ 次のページに続きます

⑪<sup>がいしゅつ</sup>外出すること<sup>じたい</sup>自体に<sup>こんなん</sup>困難を感じますか。

ア とても<sup>かん</sup>感じる イ <sup>かん</sup>感じる ウ あまり<sup>かん</sup>感じない エ <sup>かん</sup>感じない

⑫<sup>まな</sup>学びたいという<sup>いよく</sup>意欲がありますか。

ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

13 <sup>しょうがい</sup>障害のある<sup>かた</sup>方の<sup>しょうがいがくしゅう</sup>生涯学習について、<sup>いけん</sup>ご意見や<sup>きぼう</sup>ご希望があれば<sup>か</sup>お書きください。

<sup>たいへん</sup>大変お<sup>つか</sup>疲れ様<sup>さま</sup>でした。アンケートはこれで<sup>しゅうりょう</sup>終了です。

このアンケート用紙は<sup>ようし</sup>同封の<sup>どうふう</sup>返信用封筒<sup>へんしんようふうとう</sup>に入れ、<sup>い</sup>2月13日<sup>がつ</sup>までに<sup>にち</sup>ポストへ<sup>とう</sup>投かんしてください。(切手はいりません)<sup>きって</sup>

<sup>きょうりよく</sup>ご協力いただき、ありがとうございました。